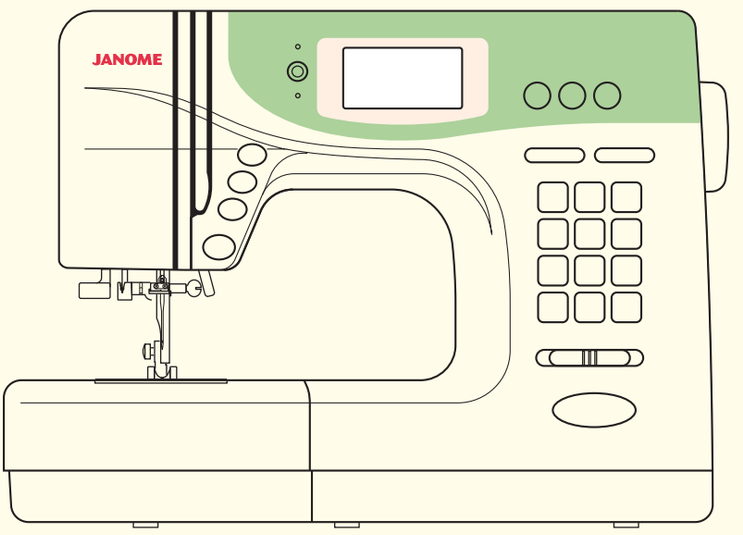
使い方の手びき

《取扱説明書》

Schone II
シェーネ



お買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
●ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

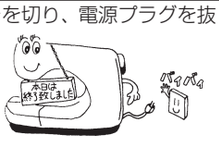
危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
⃠	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
●	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行　一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。	必ずプラグを抜く　以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止　お客様自身での分解はしないでください。	必ず実行　針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。
接触禁止　ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	必ず実行　以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
禁　止　ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	必ず実行　電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
禁　止　曲がったり、先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。	必ずプラグを抜く　以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
禁　止　フットコントローラーの上に物をのせないでください。	
禁　止　プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。	必ずプラグを抜く　ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
注　意　お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。	
必ず実行　ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。	

目　次

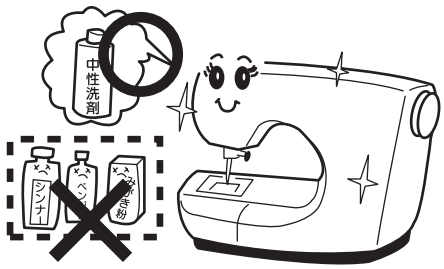
◎お取り扱いについてのお願い 2
◎各部の名まえ 3
◎標準付属品 4
◎補助テーブル 5
◎操作方法 ..... 6～22
●電源のつなぎ方 6
★スタート・ストップボタンを使用する場合 6
★フットコントローラー（オプション）を使用する場合 ... 6
●速さの調節 7
★スピードコントロールつまみ 7
★フットコントローラー（オプション） 7
●操作 ..... 8～9
●模様の選び方と画面の説明 10
●ブザー音、ウインドー画面表示時間設定方法 11
●送り歯のさげ方 12
●押さえ圧ダイヤル 12
●押さえ上げ 12
●押さえの取りかえ 13
●押さえホルダーの外し方、付け方 13
●針の取りかえ方 14
●布に適した糸や針を選ぶ目安 14
●下糸の準備をしましょう ..... 15～17
★ボビンを取り出します 15
★糸こまをセットします 15
★下糸の巻き方 16
★補助糸立て棒の利用 16
★ボビンのセット 17
●上糸の準備をしましょう ..... 18～21
★上糸のかけ方 18
★糸通しの使い方 19
★糸かけの説明表示 20
★下糸の引きあげ方 21
●糸調子の合わせ方 22
★自動糸調子 22
★マニュアル糸調子 22
◎実用ぬい ..... 23～46
●直線ぬい ..... 23～26
★ぬい始め 23
★返しぬい 23
★ぬい方向のかえ方 23
★厚手の布端のぬい始め 24
★ぬい終わり 24
★針板ガイドラインの利用 24
★コーナーリングガイドの利用 24
★ぬいの説明表示 25
★操作の説明表示 25
★直線模様の針落ちの変更、
ぬい目のあらさの調節 26
●自動返しぬい 27
●自動止めぬい 27
●三重ぬい 28
●伸縮ぬい 28
●ジグザグぬい 29
★ジグザグ密着ぬい 29
●ジグザグたち目かがりぬい 30
●トリコットぬい 30
●かがりぬい 30
●ボタン付け 31
●ボタンホールの種類と用途 32
●スクエアボタンホール ..... 32～36
★ぬい ..... 32～34
★重ねぬい 34
★芯入りスクエアボタンホール 35
★ボタンホールの幅をかえるとき 36
★ぬい目のあらさをかえるとき 36
●キーホールボタンホール 37
●ファスナー付け ..... 38～40
●コンシールファスナー付け ..... 41～42
●くけぬい（まつりぬい） 43
●ピンタック 44
●キルティング 44
●アップリケ 45
●三つ巻きぬい 45
●送りジョーズの使い方 46
◎スーパー模様の形の整え方 47
◎ミシンのお手入れ ..... 48～49
●かまと送り歯の掃除 48
●内がまと針板の組み付け 48
●ランプの取りかえ方 49
◎こんな表示が出た場合 ..... 50～51
★注意画面の種類 ..... 50～51
★ブザー音の種類 51
◎ミシンの調子が悪いときの直し方 52

◎お取り扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

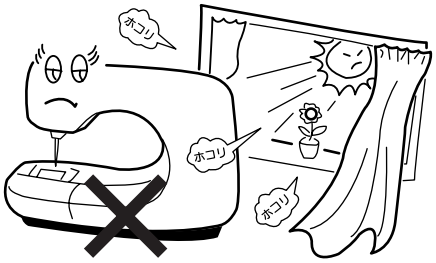


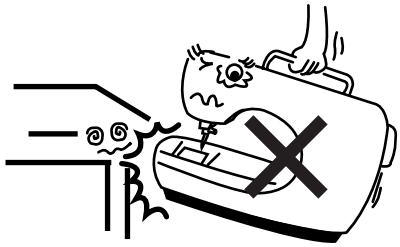
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

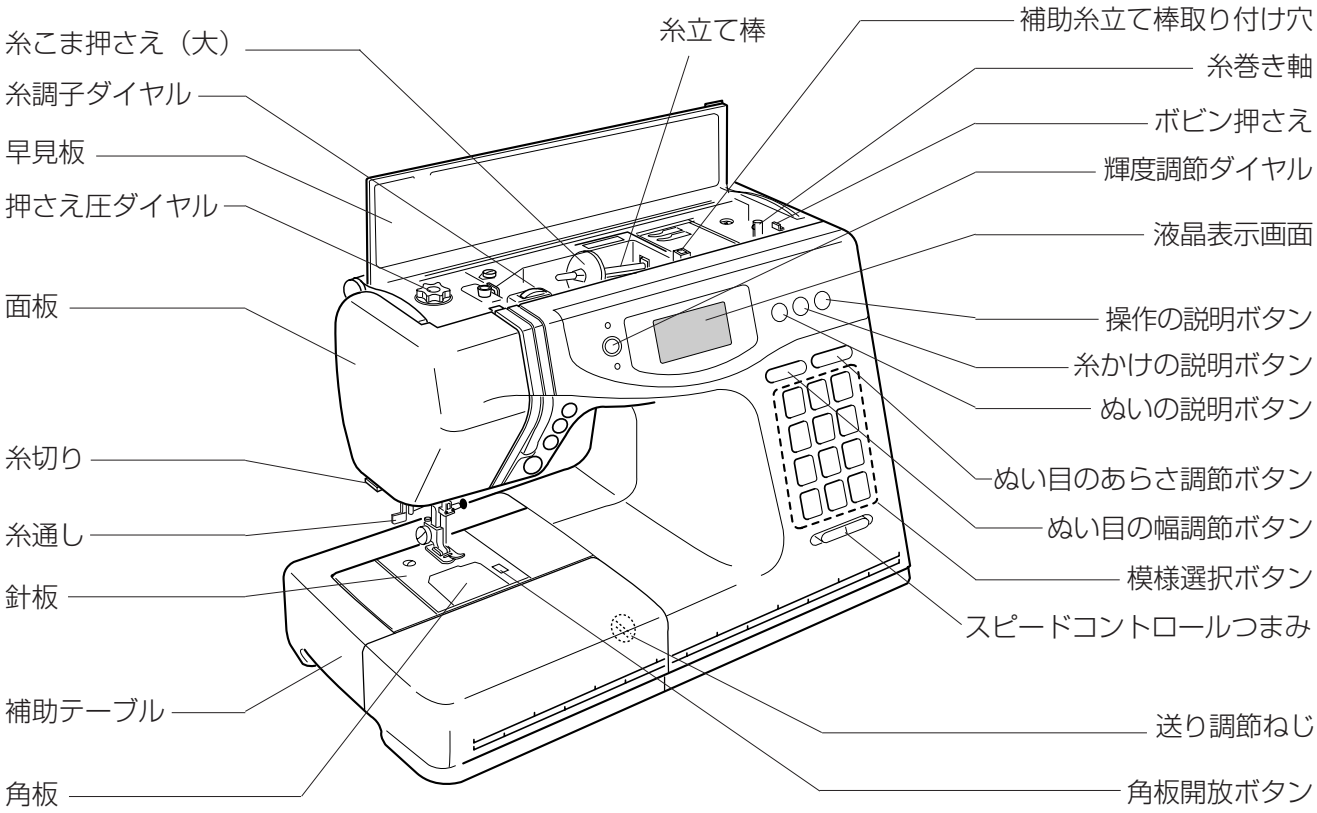


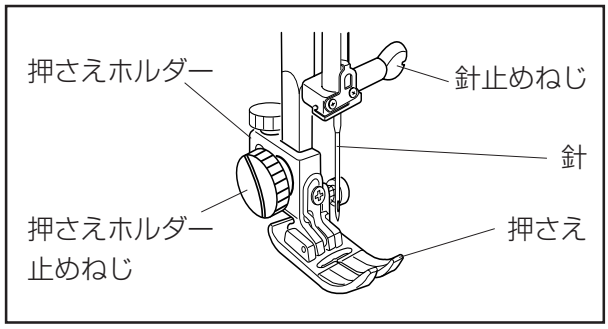


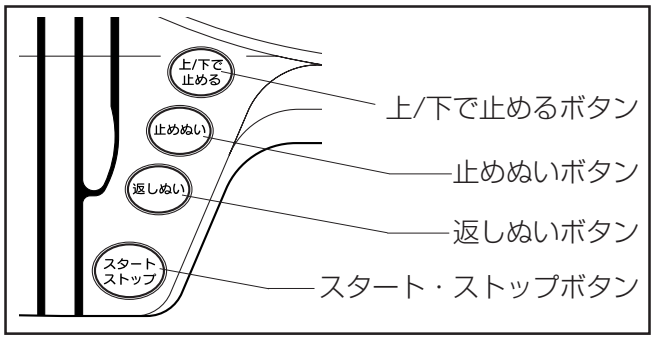
◇修理・調整についてのご案内

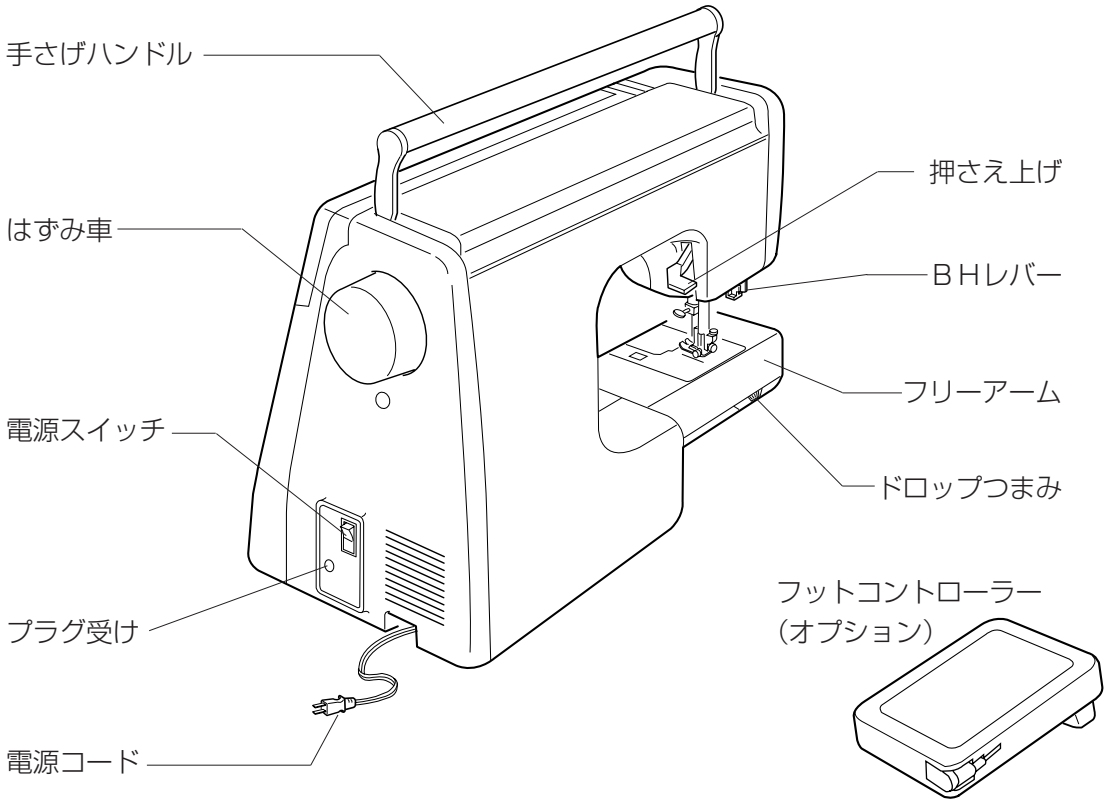
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（52 ページ）により点検・調整を行ってください。

◎各部の名まえ

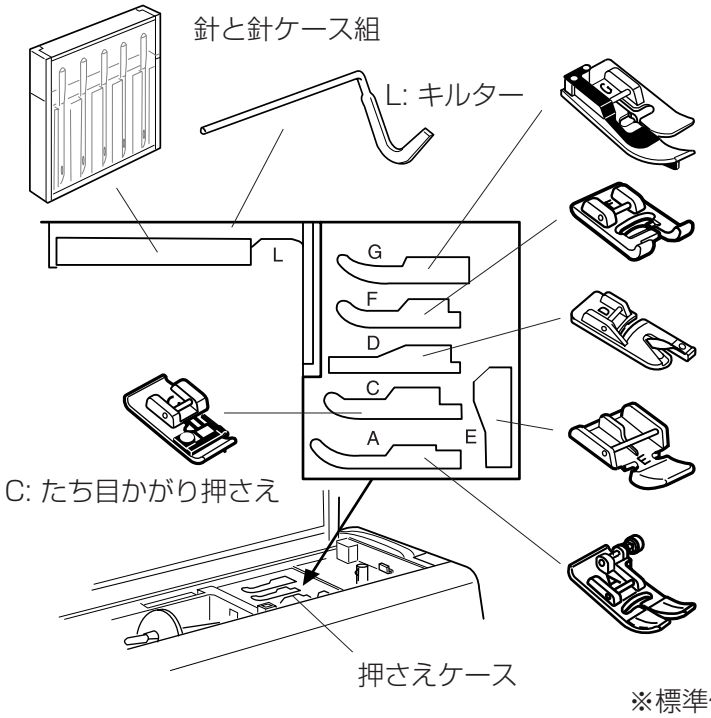

糸こま押さえ（大）
糸調子ダイヤル
早見板
押さえ圧ダイヤル
面板
糸切り
糸通し
針板
補助テーブル
角板
糸立て棒
補助糸立て棒取り付け穴
糸巻き軸
ボビン押さえ
輝度調節ダイヤル
液晶表示画面
操作の説明ボタン
糸かけの説明ボタン
ぬいの説明ボタン
ぬい目のあらさ調節ボタン
ぬい目の幅調節ボタン
模様選択ボタン
スピードコントロールつまみ
送り調節ねじ
角板開放ボタン


押さえホルダー
針止めねじ
針
押さえホルダー
止めねじ
押さえ

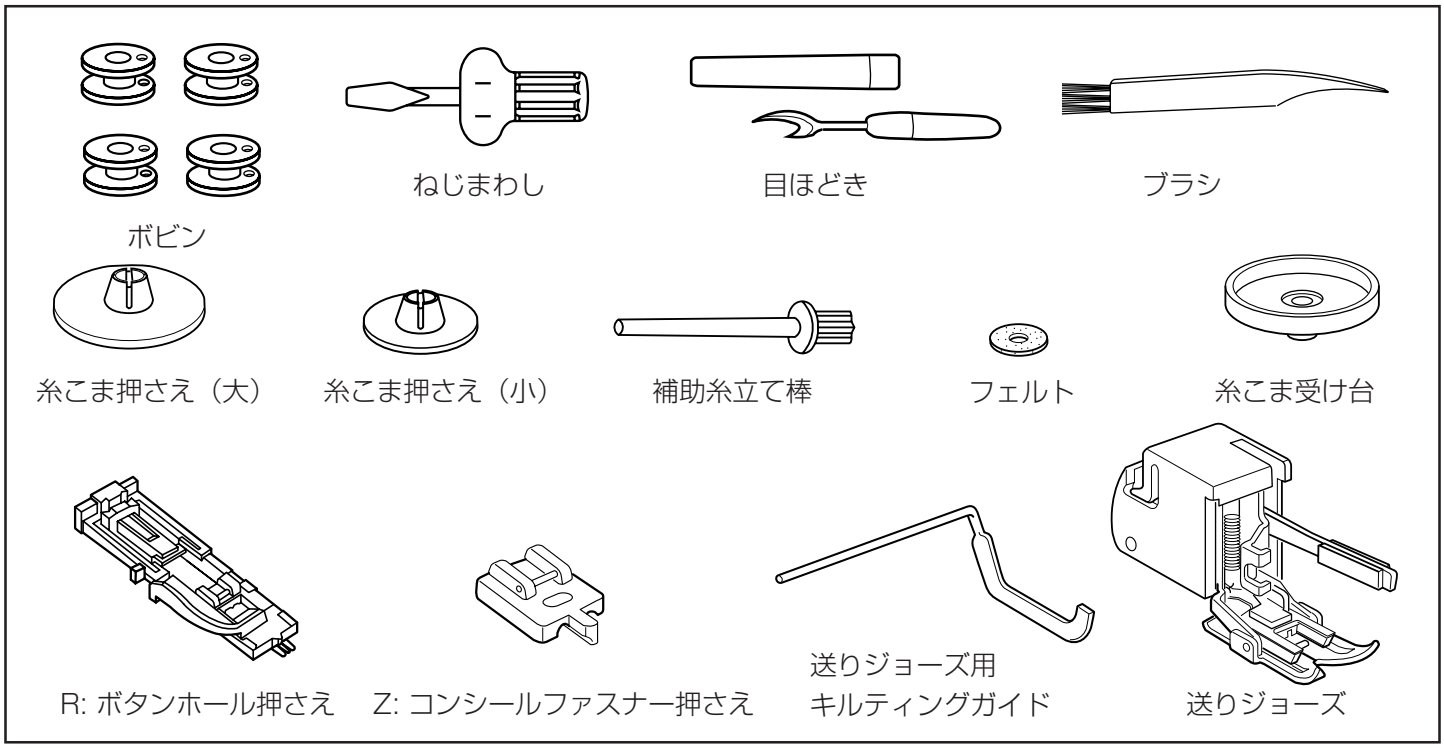

上/下で
止める
止めぬい
返しぬい
スタート
ストップ
上/下で止めるボタン
止めぬいボタン
返しぬいボタン
スタート・ストップボタン


手さげハンドル
はずみ車
電源スイッチ
プラグ受け
電源コード
押さえ上げ
ＢＨレバー
フリーアーム
ドロップつまみ
フットコントローラー
（オプション）

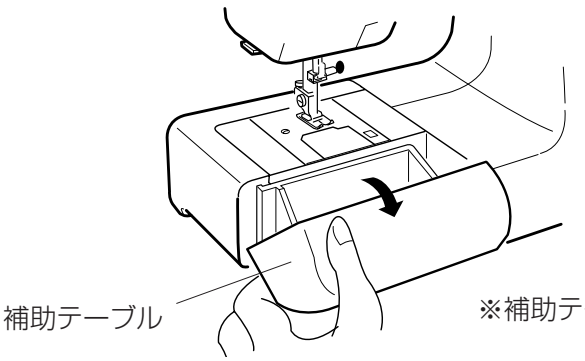
◎標準付属品



※標準付属品は、押さえケースや補助テーブルの中に収納できます。



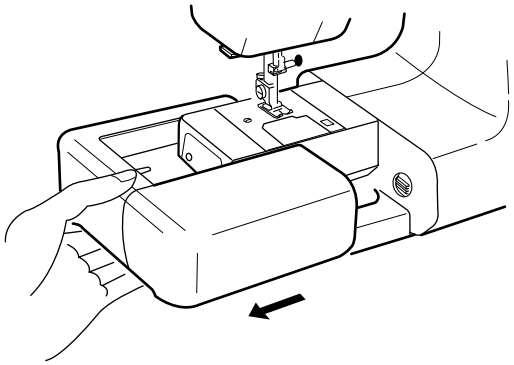
※糸こま押さえ（大）はミシン本体に取り付けてあります。



※補助テーブルを手前に開くと、標準付属品が収納できます。

◎補助テーブル

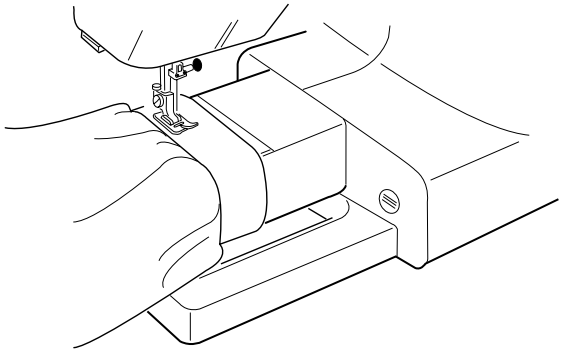
【1】



【1】外し方

補助テーブルの下側に手をかけて、横に引いて外します。

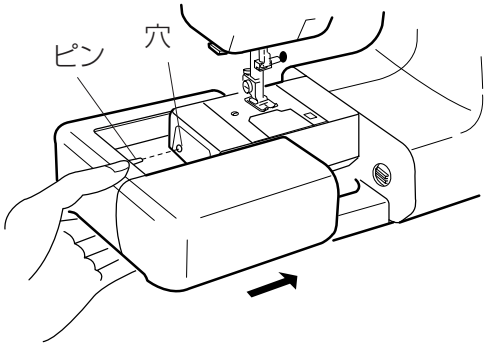
【2】



【2】フリーアームの使い方

そで口やすそなどのぬい、および、ふくろ物の口端の始末に利用します。

【3】



【3】付け方

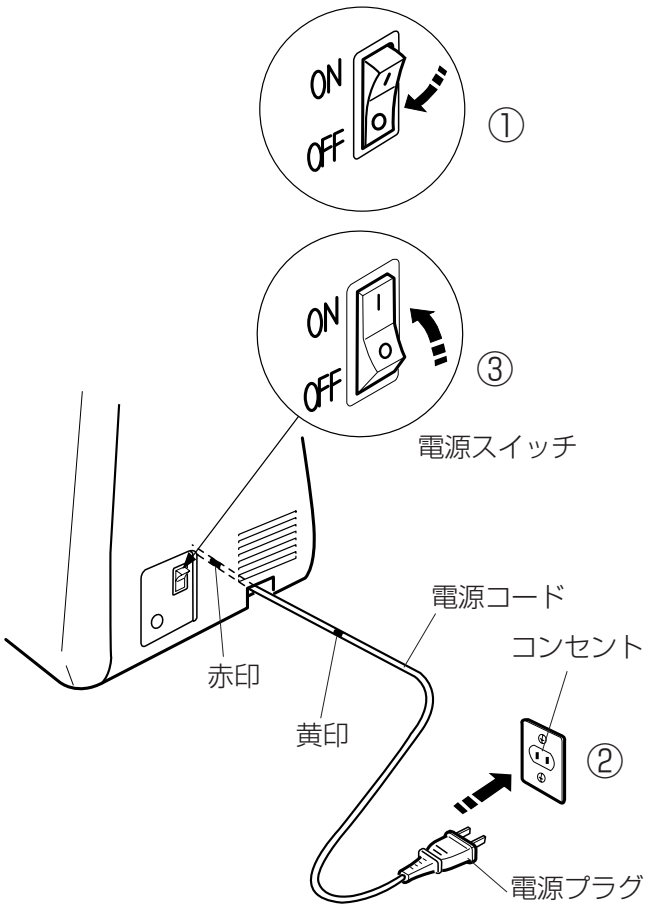
フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ取り付けます。

◎操作方法

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
  ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
  ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり
  火災の原因になります。



★スタート・ストップボタンを使用する場合

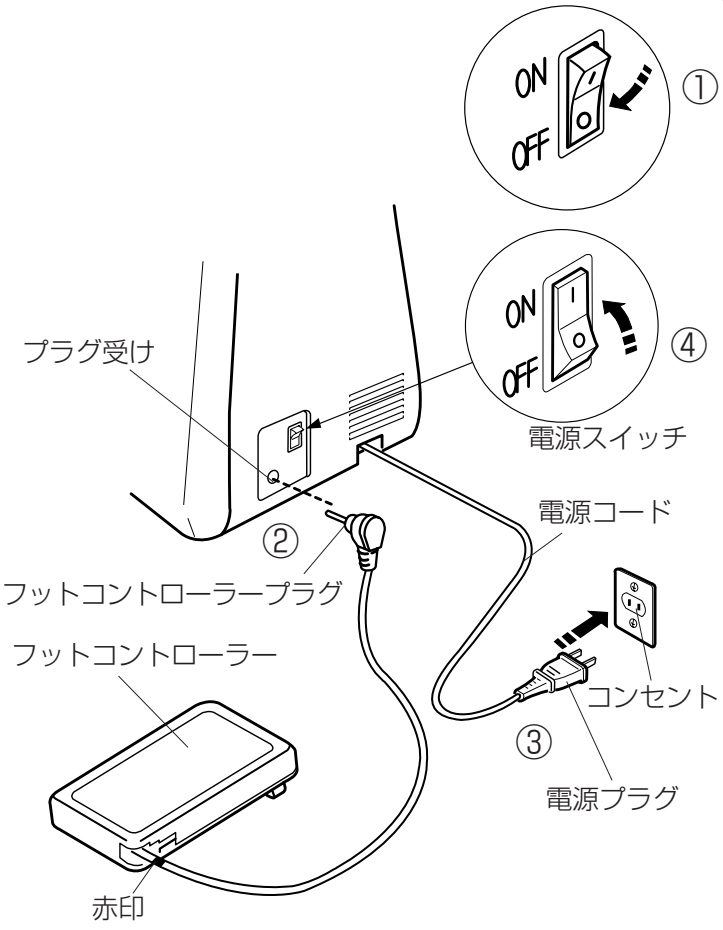
① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

② 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。

③ スイッチを「ON」（入）にします。

※ 電源コードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。黄色の印が出たら 30cm ぐらいで、赤印になります。

※ 電源コードをしまうときは、コードを少し引っ張ると自動で巻きとりますが、プラグを持って取り出し口まで案内してください。



★フットコントローラー（オプション）を使用する場合

① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

② フットコントローラープラグをミシンのプラグ受けに差し込みます。

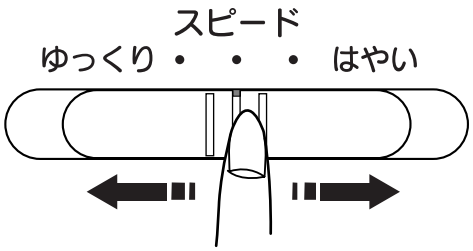
③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

④ 電源スイッチを「ON」（入）にします。

※ フットコントローラーを使用する場合は、「スタート・ストップボタン」は作動しません。

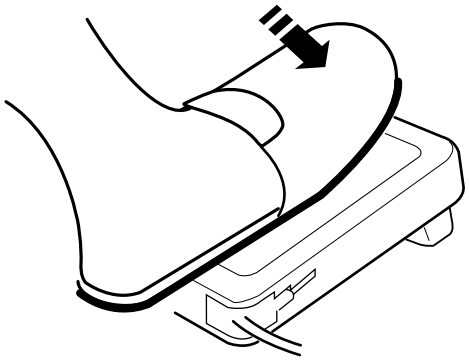
※ フットコントローラーのコードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。

●速さの調節



★スピードコントロールつまみ

ぬう速さは、スピードコントロールつまみで自由にセットできます。



★フットコントローラー（オプション）

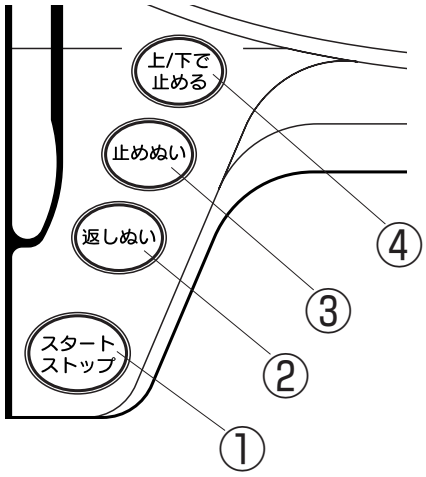
スピードコントロールつまみを「はやい」位置にセットします。フットコントローラーの踏みかげんでぬう速さが調節できます。
フットコントローラーをはなすと通常、針が上の位置で止まります。

深く踏む→速くなる。
浅く踏む→遅くなる。

⚠ 注意
フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。また、フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。 **けがや故障の原因となります。**

●操作

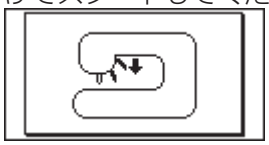
ミシンの電源を入れると、オープニング画面が表示されたあと模様「直線ぬい（中)」画面が表示されます。



①スタート・ストップボタン

ボタンを押すと､ゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。
もう１度押すと、通常、針が上の位置で止まります。
※スタートおよびストップのとき､ボタンを押し続けている間（手をはなすまで）は低速で動きます。
※「スタート・ストップボタン」を使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。
※押さえ上げをさげないでミシンをスタートしたとき、注意画面が表示されます。
押さえ上げをさげてスタートしてください。

(注意画面)



※運転中は、ボタンが赤色に点灯します。
停止中は、ボタンは緑色です。

②返しぬいボタン

【運転中の返しぬい】

模様 は､ボタンを押している間は返しぬいをします。その他の模様（ は除く）のときには、すぐに止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】
（「スタート・ストップボタン」使用時のみ）

模様 は、ミシンが動いていない状態で「返しぬいボタン」を押すと、押している間はゆっくり返しぬいをし、指をはなすと止まります。

※返しぬい中は、ボタンが赤色に点灯します。

③止めぬいボタン

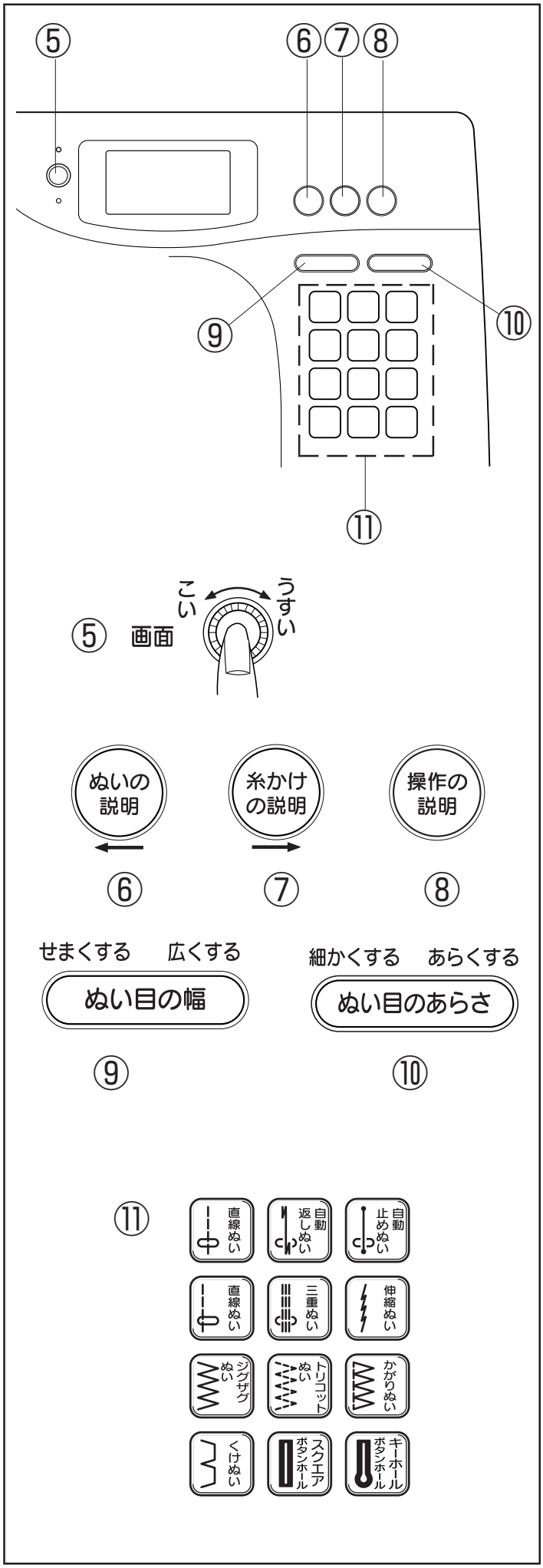
模様 は、ボタンを押すと数針止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様（ は除く）のときには、模様を完成させてから、止めぬいをして自動的に止まります。

※止めぬいをして自動的に止まるまで緑色に点灯します。

④上 / 下で止めるボタン

ミシンが止まっているときボタンを押すと､針の位置を上にあるときは下に切りかえ､下にあるときは上に切りかえます。

※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき、針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。
※ 下位置に設定しておいても、ボタンホールをぬい終わったときは、上位置で止まります。
※ 下位置に設定したとき､ボタンが橙色に点灯します。



⑤輝度調節ダイヤル

液晶画面の明るさ（濃淡）の調節をするときに使います。

⑥ぬいの説明ボタン（25 ページ参照）

ぬい情報が表示されます。

⑦糸かけの説明ボタン（20 ページ参照）

上糸かけの手順情報がスクロール表示されます。
表示を止めたいときには、「ぬい目の幅調節ボタン」の「広くする」位置を押します。もう 1 度押すと、スクロール内容全体表示に切りかわります。

※ 表示をやめたいときは、「模様選択ボタン」を押してください。

⑧操作の説明ボタン（25 ページ参照）

ぬいの操作方法がスクロール表示されます。
表示を止めたいときには、「ぬい目の幅調節ボタン」の「広くする」位置を押します。もう 1 度押すと、スクロール内容全体表示に切りかわります。

※ 表示をやめたいときは、「模様選択ボタン」を押してください。

⑨ぬい目の幅調節ボタン

（26、29 ページ参照）

ぬい目の幅、または基線（針落ち位置）をかえるときに使います。

⑩ぬい目のあらさ調節ボタン

（26、29 ページ参照）

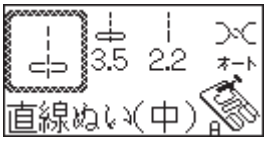
ぬい目のあらさをかえるときに使います。

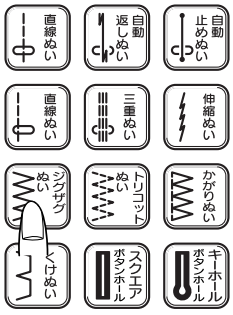
⑪模様選択ボタン（10 ページ参照）

「模様選択ボタン」を直接押して選びます。

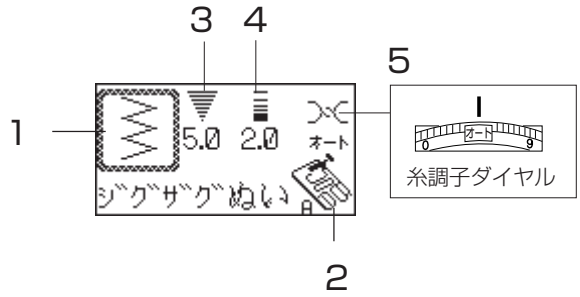
●模様の選び方と画面の説明

ミシンの電源を入れると、オープニング画面が表示されたあと模様「直線ぬい（中）」画面が表示されます。





「模様選択ボタン」を直接押して模様を選びます。

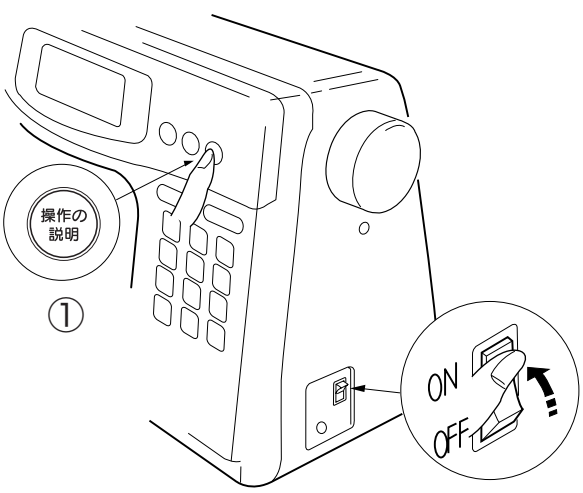


（例）ジグザグぬい

1 模様表示
2 模様に適した押さえを表示
3 ぬい目の幅（針落ち位置）表示
4 ぬい目のあらさ表示
5 模様に適した糸調子を表示

●ブザー音、ウインドー画面表示時間設定方法

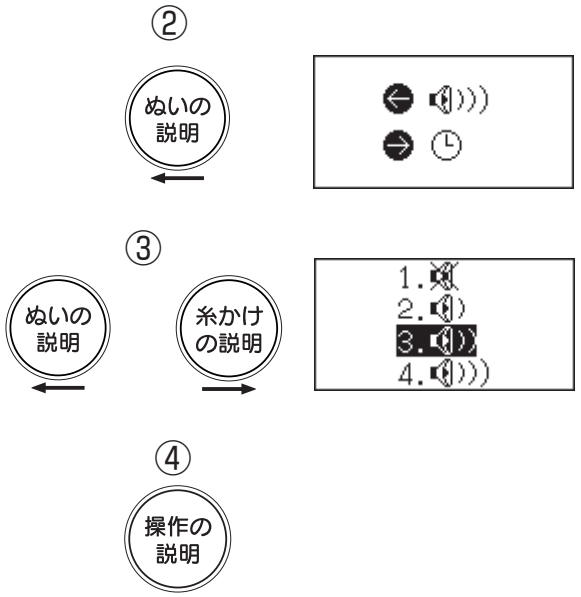
【1】



【1】使用環境設定モードの入り方

①「操作の説明ボタン」を押しながら、電源スイッチを「ON」（入）にします。

【2】



【2】ブザー音の設定

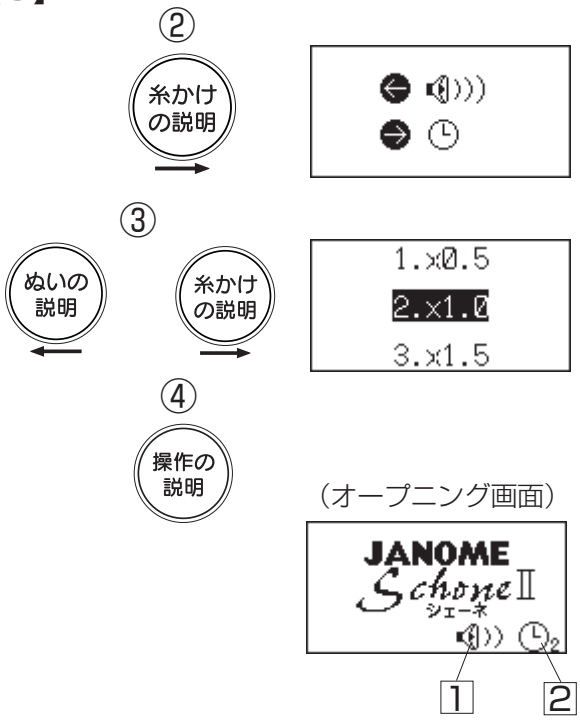
お好みによりブザー音量をかえる（1 音無し、2 小さめ、3 普通、4 大きめ）ことができます。
初期の状態（購入時のセット状態）は「3」です。

②「←」（ぬいの説明ボタン）を押すと、ブザー音設定画面になります。

③「←」（ぬいの説明ボタン）、「→」（糸かけの説明ボタン）で 1、2、3、4 の音量レベルを選びます。

④「操作の説明ボタン」を押すと設定されます。

【3】



【3】ウインドー画面表示時間の設定

模様選択、ぬい目の幅、あらさ変更画面等のウインドー画面表示時間を設定できます。
初期の状態（購入時のセット状態）2. × 1.0（2 秒）に対して、

1. × 0.5（倍）.....（短くなります）
3. × 1.5（倍）.....（長くなります）

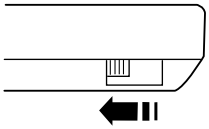
②「→」（ぬいの説明ボタン）を押すと、ウインドー画面表示時間設定画面になります。

③「←」（ぬいの説明ボタン）、「→」（糸かけの説明ボタン）で 1、2、3 の表示時間を選びます。

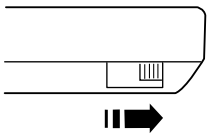
④「操作の説明ボタン」を押すと設定されます。

※ 上記各設定マークは、オープニング画面に表示されます。
1 ブザー音設定
2 ウインドウ画面表示時間設定

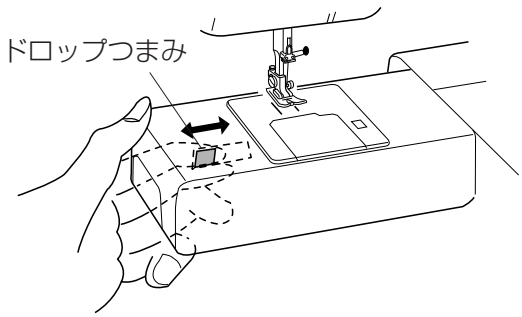
●送り歯のさげ方



【送り歯をさげる位置】



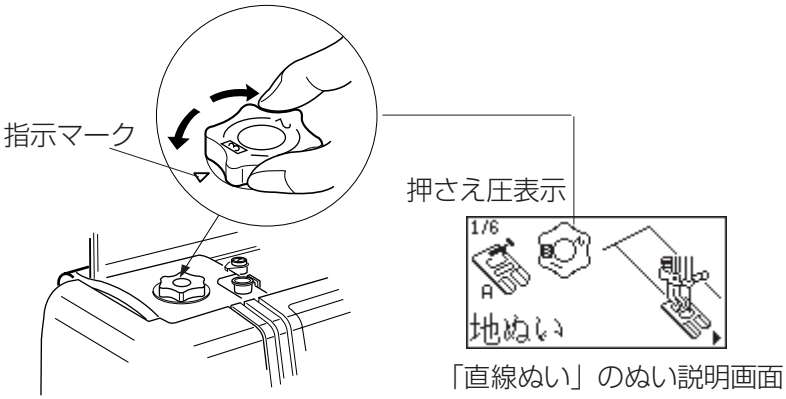
【送り歯をあげる位置】



しつけぬいやボタン付けなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを右に動かし「送り歯をさげる位置」にします。

※ 送り歯をさげた場合、ぬいが終わったら「送り歯をあげる位置」にもどしておきます。送り歯は、ミシンが回転すると自動的にあがります。

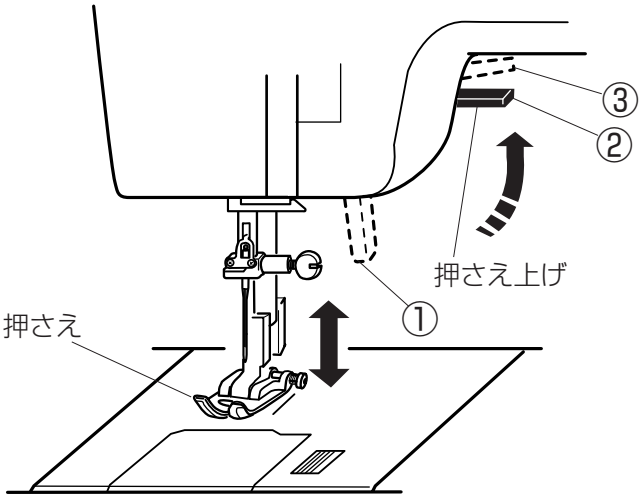
●押さえ圧ダイヤル



「直線ぬい」のぬい説明画面

画面に押さえ圧が表示されます。
普通ぬいのときは、「3」を指示マークに合わせます。うす手の化繊地や伸縮性のある布地をぬうとき、および、アップリケなどぬいしろ部分が重なりあうものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合には「2」または「1」を指示マークに合わせます。

●押さえ上げ

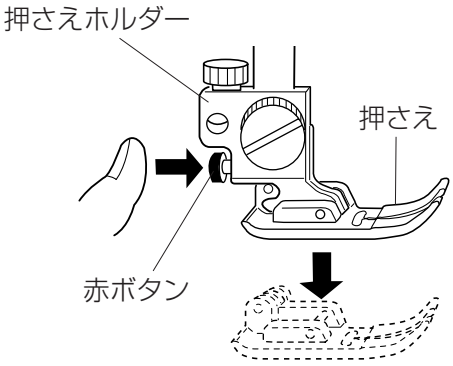


押さえ上げで、押さえのあげさげを行ないます。普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚物の布を入れるときの補助リフトとして使用します。

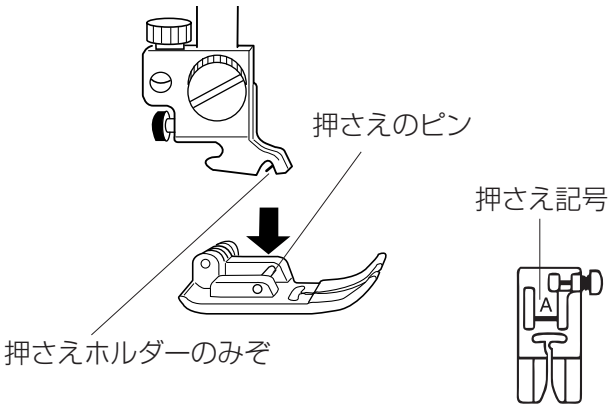
①**さげた位置** ＿＿＿ ぬいのときは、さげておきます。
②**普通にあげた位置** ＿ 布の取り出しや押さえの交換のときにあげます。
③**さらにあげた位置** ＿ 補助リフトで、厚い布などが入れやすくなります。

●押さえの取りかえ

【1】



【2】



> **⚠ 注意**
>
> 押さえ、押さえホルダーの取りかえは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。
> **けがの原因になります。**

【1】押さえの外し方

① 針をあげ、押さえ上げをあげます。

② 押さえホルダーの赤ボタンを押して、押さえを外します。

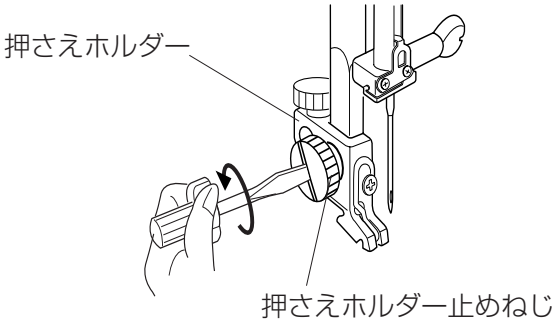
【2】押さえの付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをさげます。

※ 押さえには記号が付いていますので模様に合ったものを使用してください。

●押さえホルダーの外し方、付け方

【1】

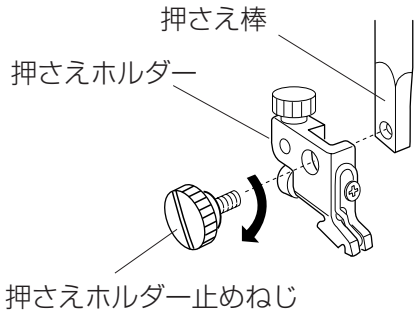


【1】押さえホルダーの外し方

① 針をあげ、押さえ上げをあげます。

② 押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

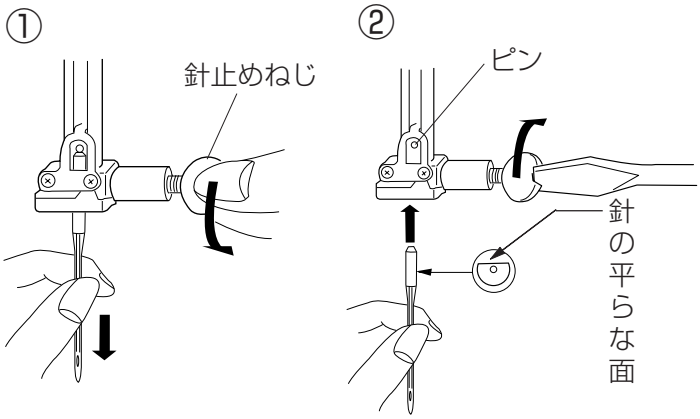
【2】



【2】押さえホルダーの付け方

押さえ棒の取り付け穴に押さえホルダーの穴を合わせ、押さえホルダー止めねじを右にまわしてしっかり取り付けます。

●針の取りかえ方



⚠ 注意

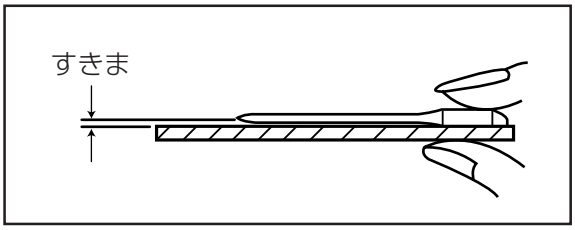
針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切りコンセントから電源プラグを抜いてください。

けがの原因になります。

① 針をあげ、押さえをさげます。
針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをねじまわしでかたくしめます。

【針の調べ方】



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

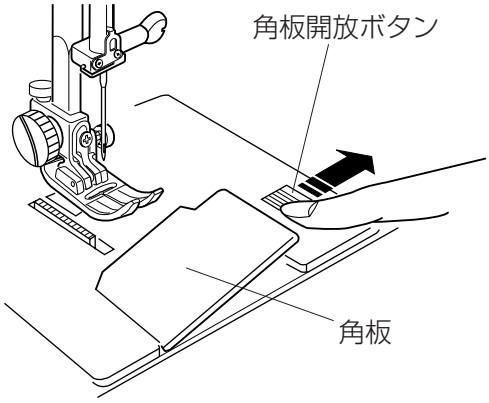
布の厚さ	布の種類				糸	針
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン ボイル	シフォンジョーゼット オーガンジー	デジン クレープ モスリン	スムーズニット地 トリコット地	ポリエステル90番	９番～11番
普通の布	ブロード サッカー ピケ	タフタ ファイユ サテン	ジョーゼット フラノ サキソニー	ジャガード ニット地	絹糸　50番 綿糸　60番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	11番～14番
					綿糸　50番	14番
厚い布	デニム キルティング ギャバジン		ツィード ギャバジン コート地	ダブルニット地	絹糸　50番 綿糸　40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
					絹糸　30番 綿糸　30番	16番

※ 普通、上糸と下糸は同じ糸を使います。
※ うすい布には細い糸と細い針、厚い布には太い糸と太い針を使いましょう。
※ 針や糸は、実際にぬう布のはぎれを使って、必ず試しぬいをして確かめてみましょう。
※ ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ニット地）や、目とびしやすい合・化繊地に効果があります。

●下糸の準備をしましょう

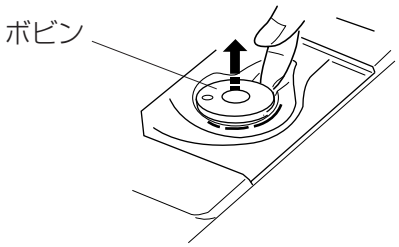
★ボビンを取り出します

①



①「角板開放ボタン」を右へずらして角板を外します。

②

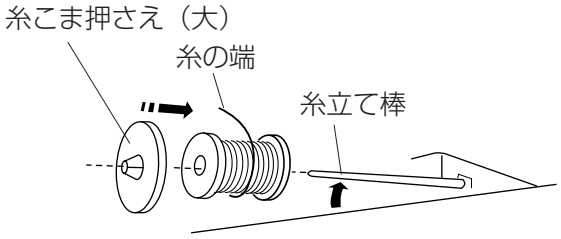


②ボビンを取り出します。

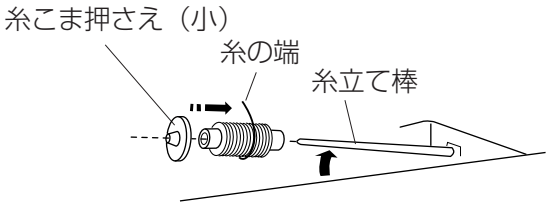
※ ボビンの巻き量が少ないものは、使用しないでください。糸がらみの原因になります。
※ ボビンは、必ず、専用ボビンをご使用ください。他の製品を使用すると故障の原因になります。

★糸こまをセットします

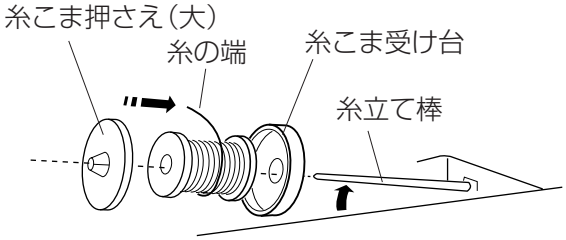
【1】



【2】



【3】

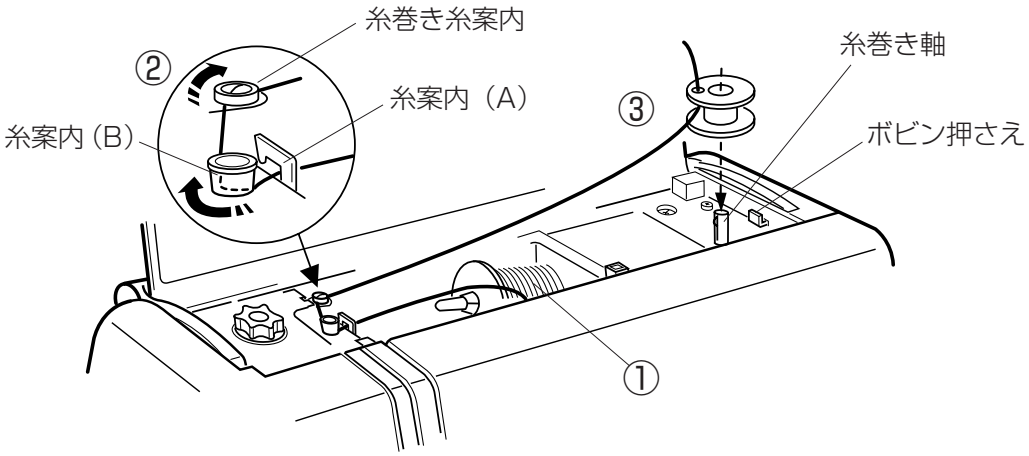


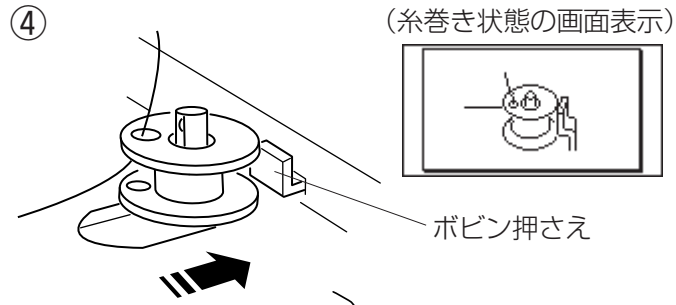
【1】普通の糸こまのとき
糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

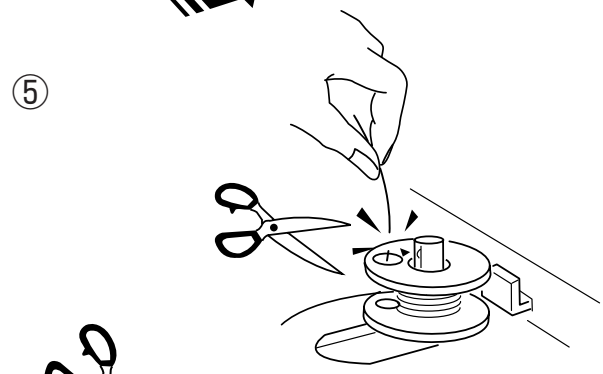
【2】小さい糸こまのとき
糸こま押さえ（小）を使用します。

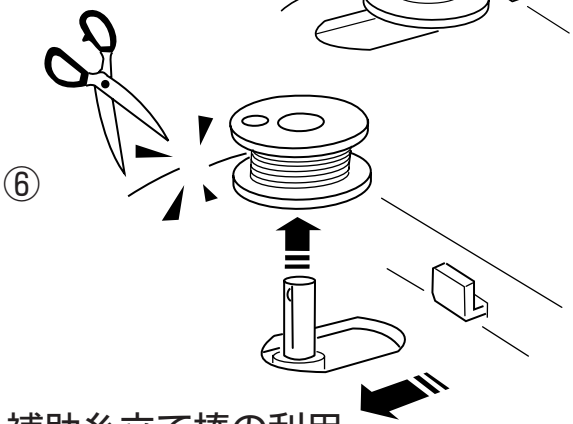
【3】糸が外れるとき
糸こまの下に糸こま受け台をセットします。

★下糸の巻き方









※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを「はやい」の位置にセットしてください。
※ ボビンは、ジャノメ専用ボビンをご使用ください。

①糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

②糸を両手で持ち、糸案内（A）、（B）にかけ、糸巻き糸案内にかけます。

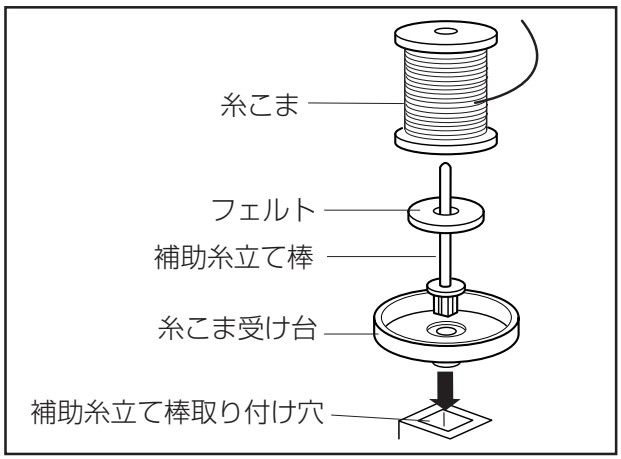
③ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

④糸巻き軸をボビン押さえの方に押しつけます。
※ 糸巻き状態の画面表示にかわります。

⑤糸の端をつまんだまま（図のように上方向にかるくつまんでおきます。）ミシンをスタートします。糸巻きがスタートして糸が２～３重ほど巻きついたら、ミシンを止めます。つまんでいる糸をボビンのきわで切ります。

⑥ミシンを再びスタートします。
巻き終わったらミシンを止め、糸巻き軸をもとの位置にもどします。
ボビンを糸巻き軸から外して、糸を切ります。

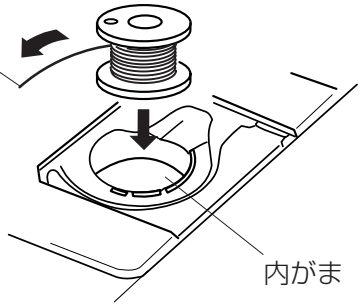
★補助糸立て棒の利用



補助糸立て棒は、下側に糸こま受け台を差し込んだ状態で、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。

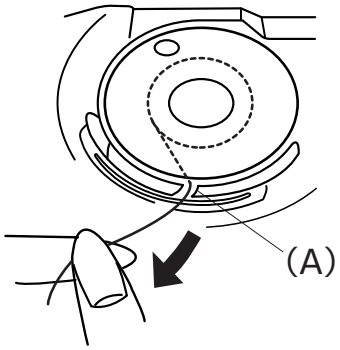
★ボビンのセット

① 糸の端



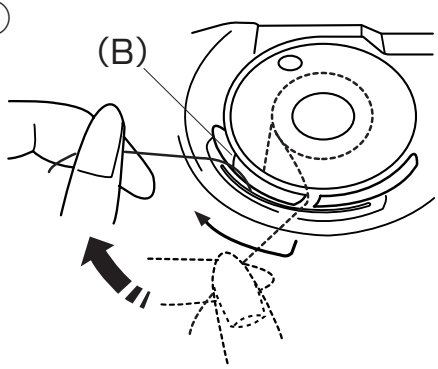
① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

②



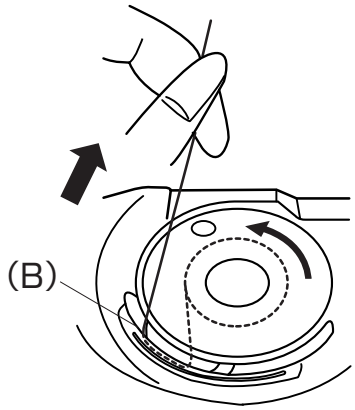
② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。

③



③ 糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とバネの間を通して、左側のみぞ（B）のところに出します。

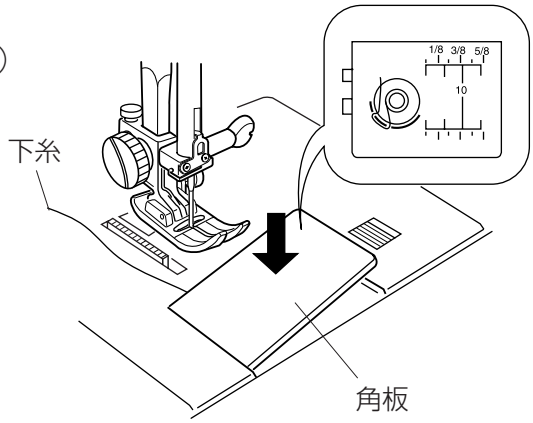
④



④ 糸を左側のみぞ（B）にかけるように向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは、反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえてください。

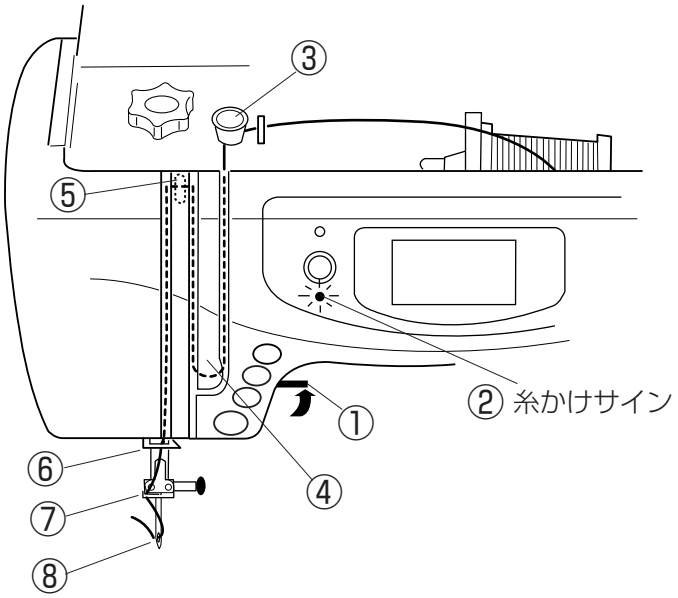
⑤



⑤ 下糸は、10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせてつけます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸のかけ方



※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

※ 上糸かけの手順を見るときには、「糸かけ説明ボタン」を押します。
（20 ページをごらんください。）

① 押さえ上げをあげます。

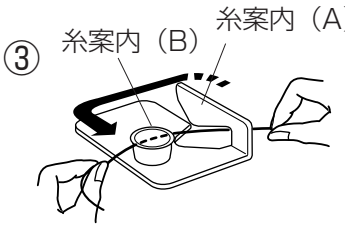
② はずみ車を手で手前にまわし、針を上にあげ、糸かけサインを点灯させます。

※ 糸かけサインが点灯していないと上糸通しが正しくできませんので、必ず確認してください。

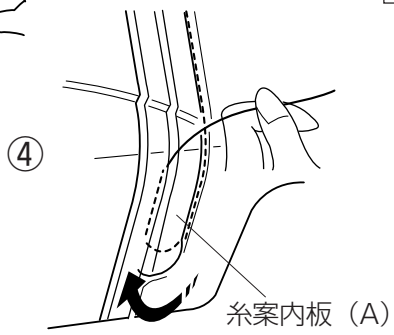
※ 上糸通しが完了するまで、はずみ車をまわさないでください。

⚠ 注意

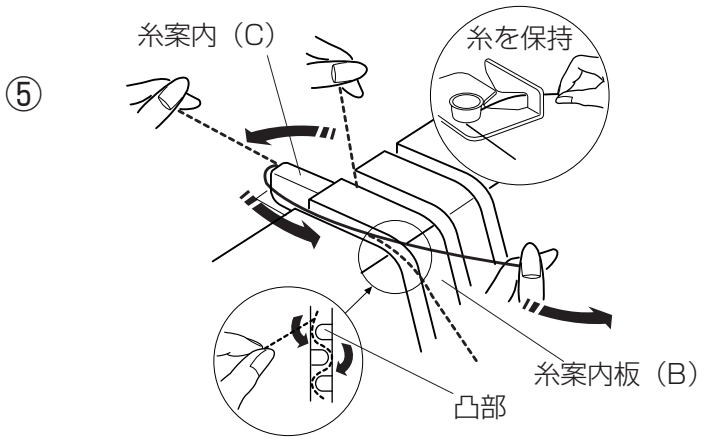
糸かけサインの点灯を確認して、上糸かけの手順を見ない場合は、安全のため電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。



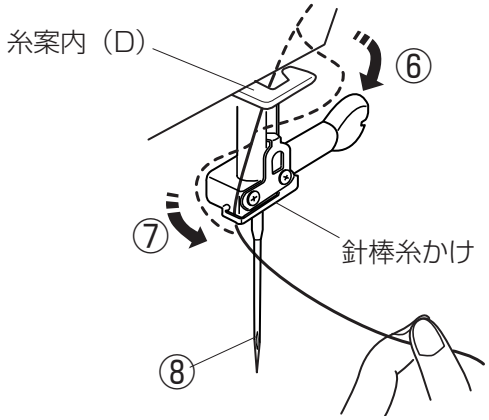
③ 両手で糸を持ち、糸案内（A）と糸案内(B）に巻きつけるようにしてかけます。



④ 糸案内板（A）にそっておろし、糸案内板（A）の下をまわして左上に引きあげます。



⑤ 糸案内 (C) に右からうしろへまわして、糸案内板 (B) の上にある凸部で手前に引っ張るようにしてから凸部をジグザグに通します。
次に、まっすぐに糸案内板（B）にそっておろします。



⑥ 糸案内（D）に右からかけます。

⑦ 針棒糸かけに左からかけます。

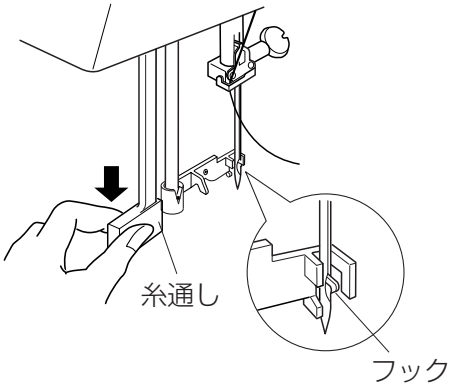
⑧ 糸通しを使って針に糸を通します。
（糸通しの使い方は、19 ページをごらんください。）

★糸通しの使い方

※ 針は、11 番～ 16 番、ストレッチ針
糸は、50 番～ 90 番が使えます。

① 押さえ上げをさげ、糸通しを止まるまで引きさげます。
糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

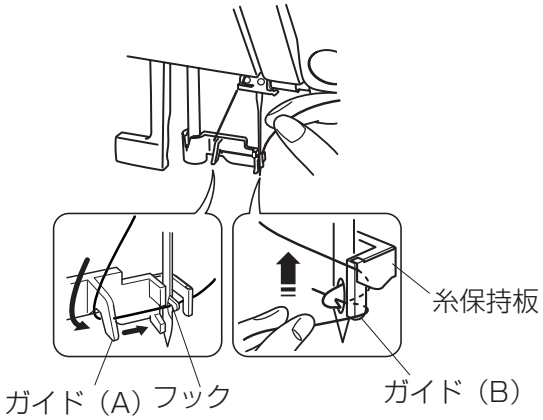
①



② 糸を左側からガイド（A）とガイド（B）にかけます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。

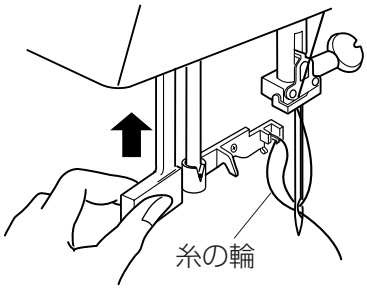
③ ガイド（B）の右から手前にまわして、そのままガイド（B）の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

②③



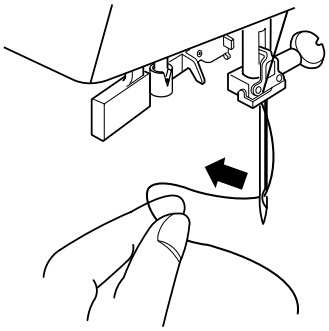
④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

④



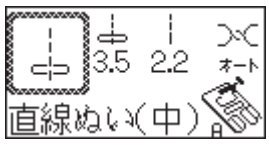
⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

⑤



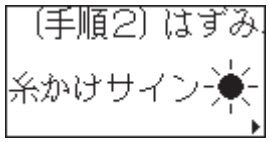
★糸かけの説明表示

（模様選択画面）



（手順スクロール画面）

1



上糸かけから糸通しまでの手順を見ることができます。

※ 糸かけの説明表示中は、安全の為 「スタート・ストップボタン」等は作動しないようになっています。

①「糸かけの説明ボタン」を押します。
手順 1 説明文がスクロールします。

②「糸かけの説明ボタン」を押す毎に、手順画面を切りかえることができます。

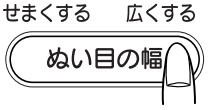
※ 押さえ上げをあげなかった場合は、警告音が鳴り、手順1の表示のままとなります。押さえ上げをあげてください。（手順2、4も説明内容にしたがって操作してください。）

③ 手順９が終了すると、模様選択画面にもどります。

※ 糸かけの説明表示中に、「模様選択ボタン」を押すと、説明表示を中断して、模様選択画面になります。
また、ぬい目の幅、ぬい目のあらさも初期の状態（購入時のセット状態）にもどります。

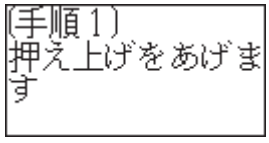
1 画面右下の「 ▶ 」は、次の画面があることを表示してあります。

【1】



（ストップ画面）

（説明文全体画面）

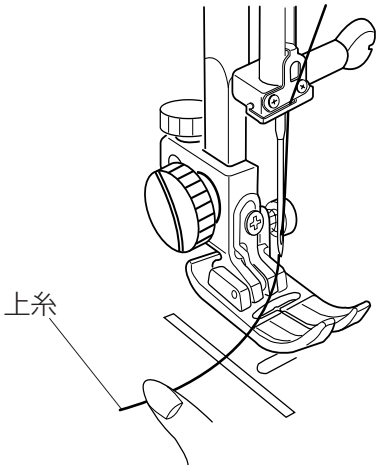


【1】スクロールをストップさせるとき

「ぬい目の幅調節ボタン」の「広くする」側を押します。
2 回押すと、説明文の全体表示になります。
3 回押すと、もとのスクロール画面になります。

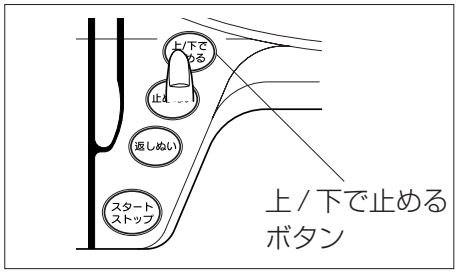
★下糸の引きあげ方

①

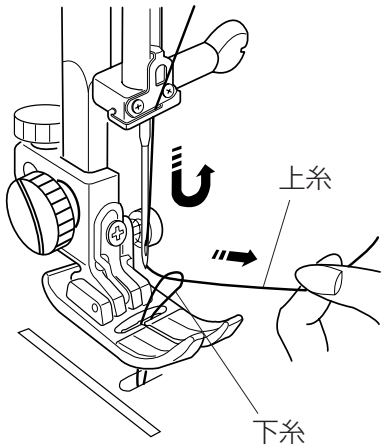


① 押さえをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。

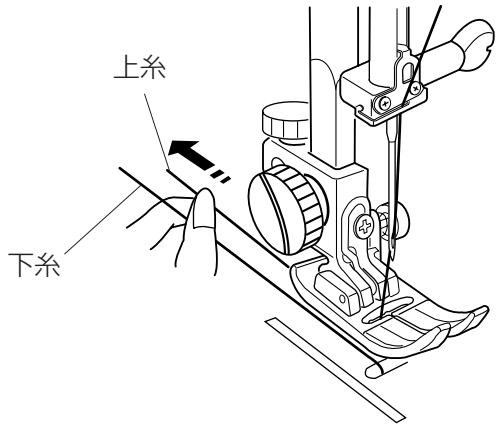
②



② 電源スイッチを入れ、「上 / 下で止めるボタン」を２回押して、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



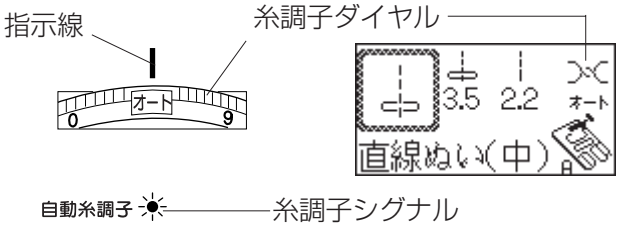
③



③ 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10cmほど引き出して、そろえておきます。

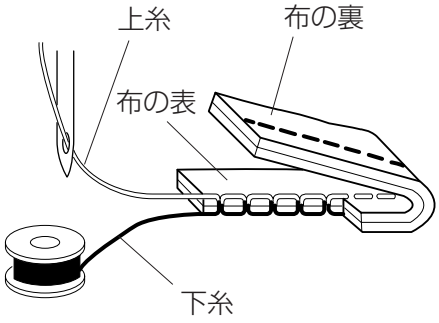
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



指示線に糸調子ダイヤルの「 オート」を合わせると、糸調子シグナルが点灯し、普通ぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。
特殊な素材をぬう場合などには、糸調子ダイヤルをまわしてお好みの糸調子に調節してください。糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

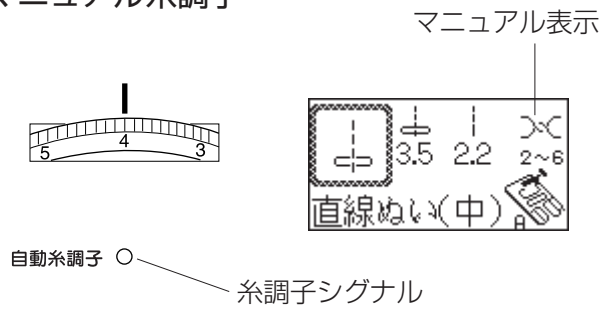
【1】



【1】バランスのとれた糸調子

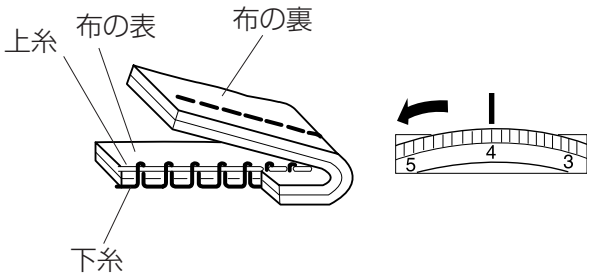
※ 直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。
※ ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子



糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルを「4」にセットして、試しぬいをしてください。
次に、糸調子ダイヤルをまわして調節します。
※ 糸調子シグナルは消灯します。

【2】

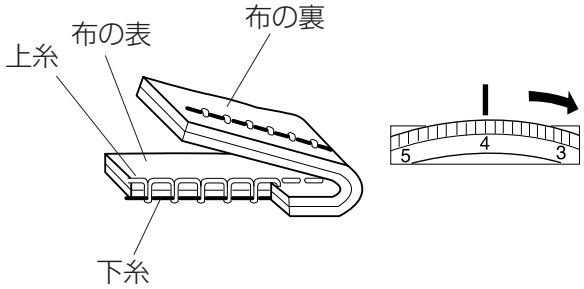


【2】上糸が強すぎるとき

下糸が布の表に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして数値を小さくします。

【3】



【3】上糸が弱すぎるとき

上糸が布の裏に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして数値を大きくします。

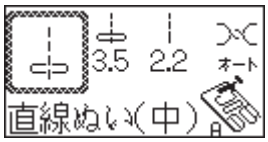
◎実用ぬい

●直線ぬい

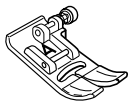
ミシンのセット

模様

または

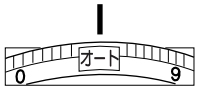


押さえ



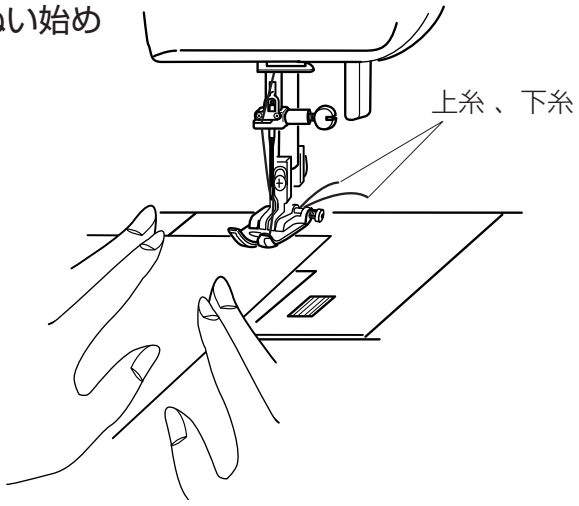
A: 基本押さえ

糸調子ダイヤル



「オート」

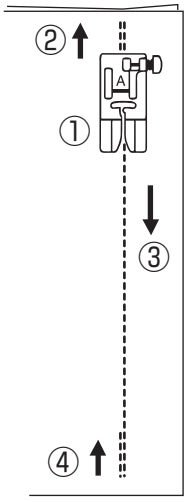
★ぬい始め

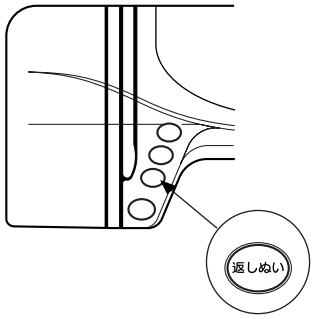


上糸と下糸を押さえの下を通し向こう側に引き出し、はずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。押さえをさげてぬい始めます。

※ F：サテン押さえとR：ボタンホール押さえのぬい始めの上糸下糸は、横に引き出しておきます。

★返しぬい





ぬい目のほつれを防ぐため、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。

① 返しぬいの分だけ、布を奥に入れ、はずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。押さえをさげます。

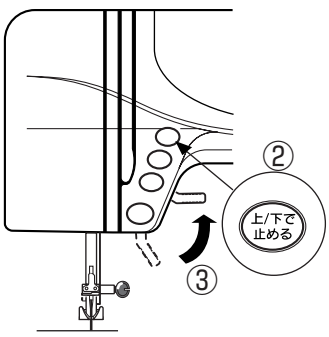
② 「返しぬいボタン」を押して、４～５針返しぬいをします。

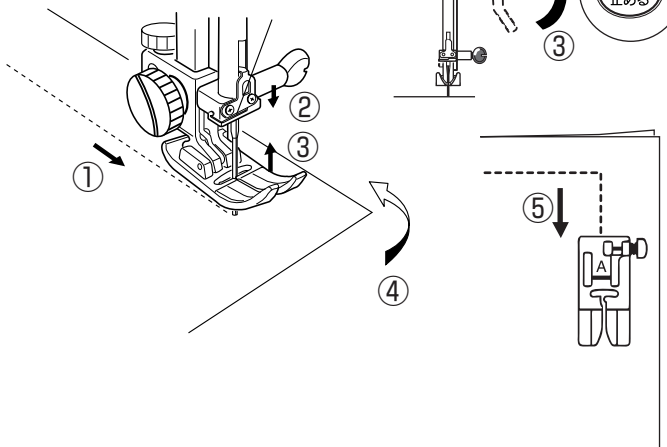
③ 「スタート・ストップボタン」を押して、布地の端までぬい進めます。

④ ミシンを止め、「返しぬいボタン」を押して、４～５針返しぬいをします。

※ 模様 のときは、ぬい終わりに「返しぬいボタン」を１度押すと、数針返しぬい（止めぬい）をして自動的に止まります。
（ぬい始めの位置は、布端からになります。）

★ぬい方向のかえ方





① 布地の角まできたら、ミシンを止めます。

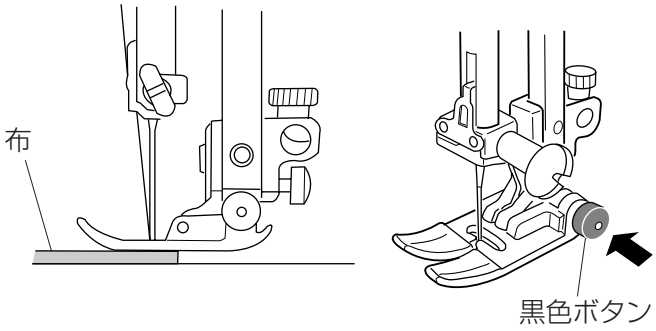
② 「上 / 下で止めるボタン」を押して針を布にさします。

③ 押さえをあげます。

④ 針を軸にして布地をまわし、ぬい方向にセットします。

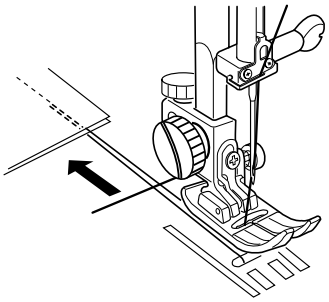
⑤ 押さえをさげて、ぬい始めます。

★厚手の布端のぬい始め

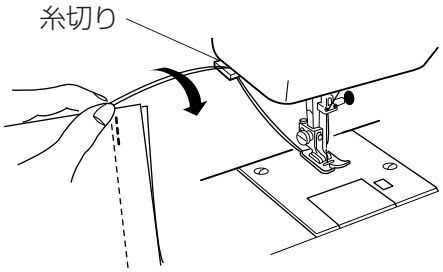


ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒色ボタンを押し込みます。
ボタンを押したままで押さえをさげます。
ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にのると、黒色ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

★ぬい終わり

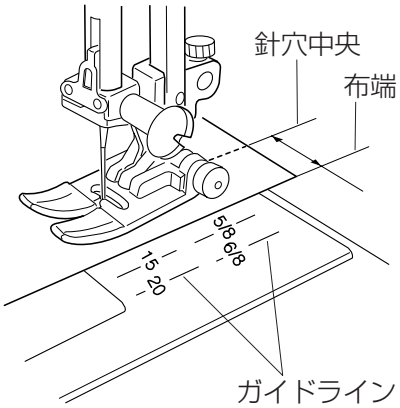


① 押さえをあげて、布を向こう側にそっと引き出します。



② 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用

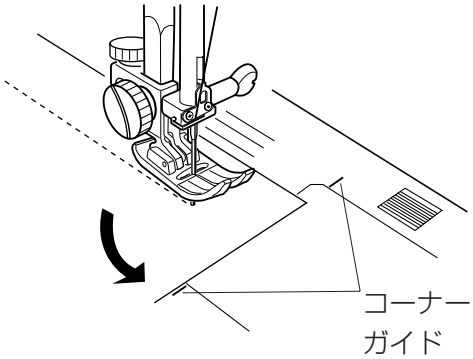


布端を針板のガイドラインに合わせてぬいます。

※ ガイドラインの数字は、針穴中央からガイドラインまでの間かくを「ミリメートル」または、「インチ」で示しています。

数字	1.5	2.0	4/8	5/8	6/8
間隔（cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

★コーナーリングガイドの利用



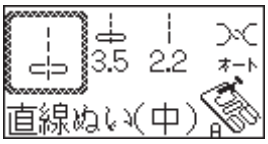
布端から 1.6cm のところで直角にぬい方向をかえるとき

① 布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、「上 / 下で止めるボタン」を押して針を布にさします。

② 押さえをあげ、布を回転させてガイドラインの 5/8（1.6cm）に合わせます。

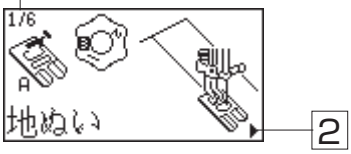
③ 押さえをさげ、ミシンをスタートします。

★ぬいの説明表示



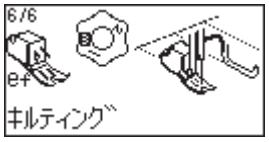
1

【1】



【2】

【3】



「ぬいの説明ボタン」を押すと、模様に合ったぬい情報が表示されます。

（例）模様「直線ぬい（中）」

【1】地ぬいに必要な、押さえ、押さえ圧を表示

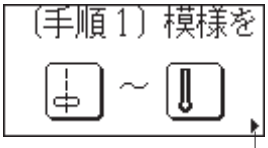
1 ぬい情報画面のページを表示してあります。
2 次の画面があることを表示してあります。
※ 「ぬいの説明ボタン」を押して次のページにします。

【2】コンシールファスナー付けぬいに必要な押さえ、押さえ圧を表示

【3】キルティングに必要な押さえ、押さえ圧を表示

※ キルティング画面（6/6）が終了すると模様選択画面にもどります。
※ ぬいの説明表示中に、スタートすると、模様選択画面にもどり、ぬうことができます。

★操作の説明表示



1

「操作の説明ボタン」を押すと、ぬいまでの準備情報がスクロール表示されます。

※ 操作の説明表示中は、安全の為「スタート・ストップボタン」等は作動しないようになっています。

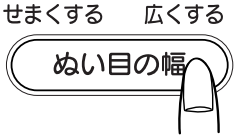
① 「操作の説明ボタン」を押します。
手順 1 説明文がスクロールします。

② 「操作の説明ボタン」を押す毎に、手順画面を切りかえることができます。

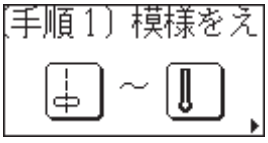
※ 手順 7 が終了すると、模様選択画面にもどります。
※ 操作の説明表示中に、「模様選択ボタン」を押すと、説明表示を中断して、模様選択画面になります。
また、ぬい目の幅、ぬい目のあらさも初期の状態（購入時のセット状態）にもどります。

1 画面右下の「 ▶ 」は、次の画面があることを表示してあります。

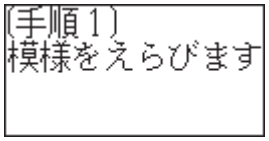
【1】



（スクロール停止）



（説明文全体表示）

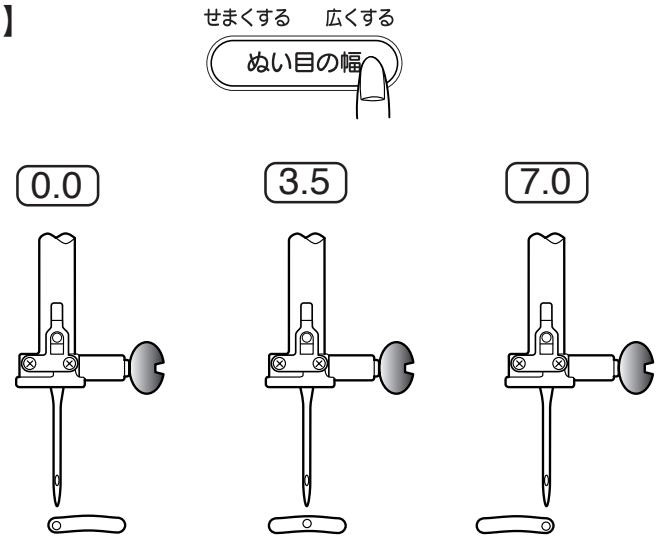


【1】スクロールをストップさせるとき

「ぬい目の幅調節ボタン」の「広くする」側を押します。
2 回押すと、説明文の全体表示になります。
3 回押すと、もとのスクロール画面になります。

★直線模様の針落ちの変更、ぬい目のあらさの調節

【1】



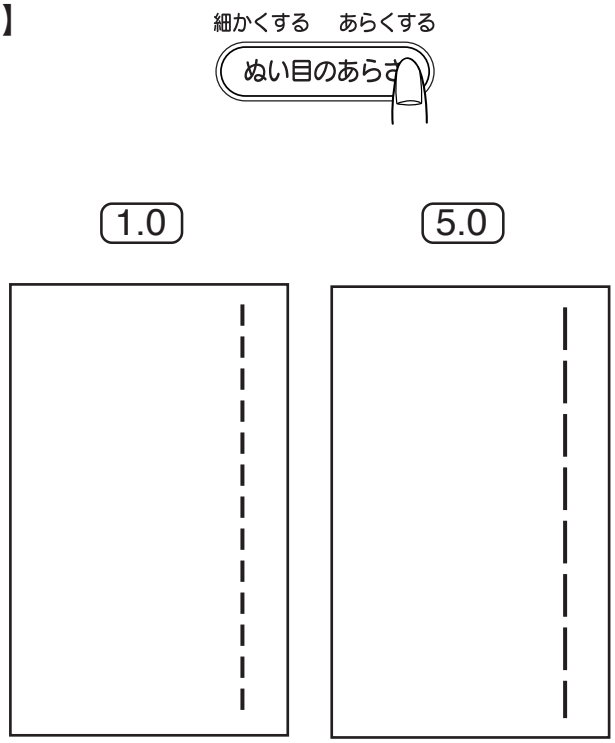
【1】直線ぬいの針落ち位置をかえるとき

「ぬい目の幅調節ボタン」で針落ち位置をかえることができます。

「せまくする」側を押すと、針が左へ移動します。

「広くする」側を押すと、針が右へ移動します。

【2】



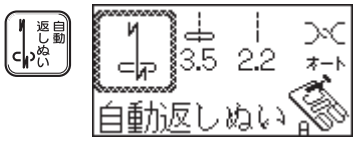
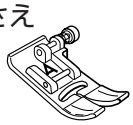
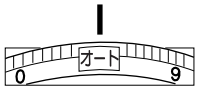
【2】ぬい目のあらさをかえるとき

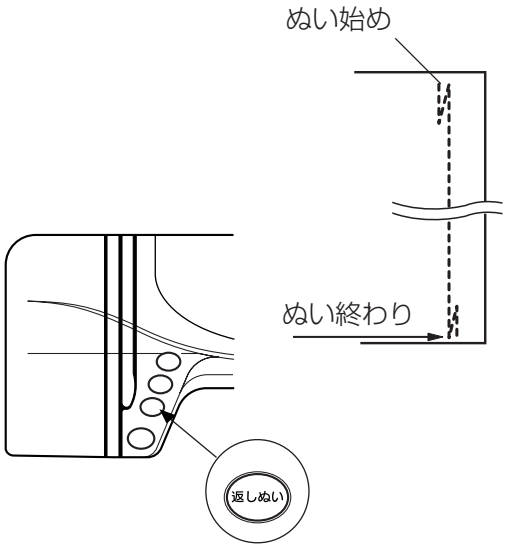
「ぬい目のあらさ調節ボタン」でぬい目のあらさをかえることができます。

「細かくする」側を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

「あらくする」側を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。

●自動返しぬい

ミシンのセット	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
		 A: 基本押さえ	 「オート」



しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使用します。

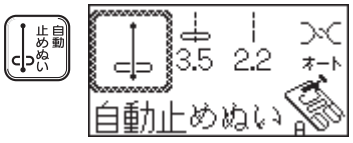
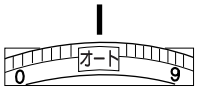
(「スタート・ストップボタン」使用時)

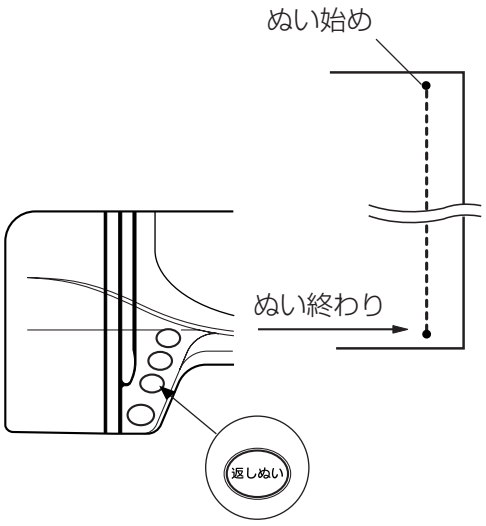
ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。
ぬい終わりにきたときミシンを止めると、「返しぬいボタン」が点滅します。「返しぬいボタン」を 1 度押すと、「返しぬいボタン」が点灯し、数針返しぬいをして自動的に止まります。
ミシンを止めないときも「返しぬいボタン」を 1 度押すと、数針返しぬいをして自動的に止まります。

(フットコントローラー使用時)

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。
ぬい終わりにきたら、「返しぬいボタン」を 1 度押します。
数針返しぬいをして自動的に止まります。

●自動止めぬい

ミシンのセット	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
		A: 基本押さえ	 「オート」



止めぬいを自動的に行うときに使用します。

(「スタート・ストップボタン」使用時)

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。
ぬい終わりにきたときミシンを止めると、「返しぬいボタン」が点滅します。「返しぬいボタン」を 1 度押すと、「返しぬいボタン」が点灯し、数針止めぬいをして自動的に止まります。
ミシンを止めないときも「返しぬいボタン」を 1 度押すと、数針止めぬいをして自動的に止まります。

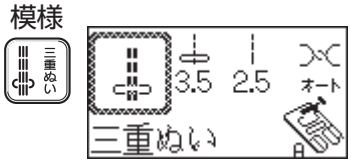
(フットコントローラー使用時)

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。
ぬい終わりにきたら、「返しぬいボタン」を1度押します。
数針止めぬいをして自動的に止まります。

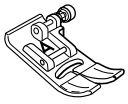
●三重ぬい

ミシンのセット

模様

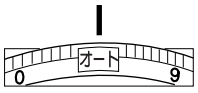


押さえ

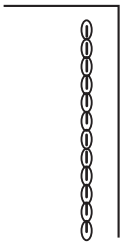


A: 基本押さえ

糸調子ダイヤル



「オート」



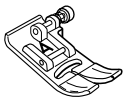
厚地、ニット地の地ぬいや補強ぬいに使います。

●伸縮ぬい

ミシンのセット

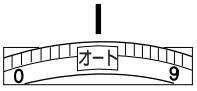
模様

押さえ

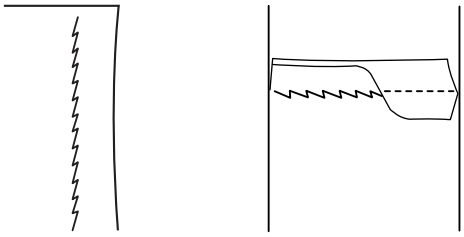


A: 基本押さえ

糸調子ダイヤル

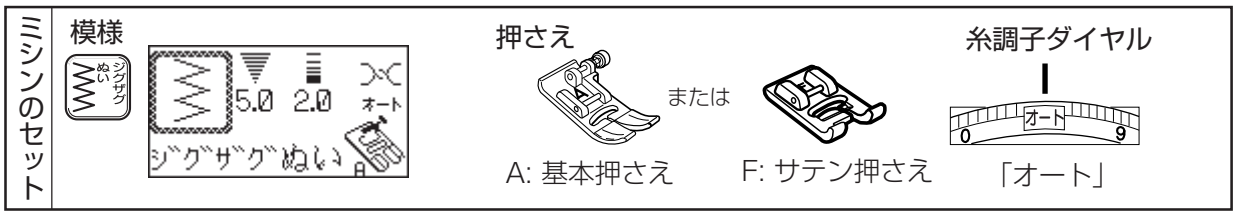


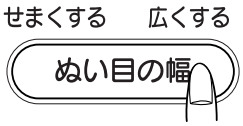
「オート」



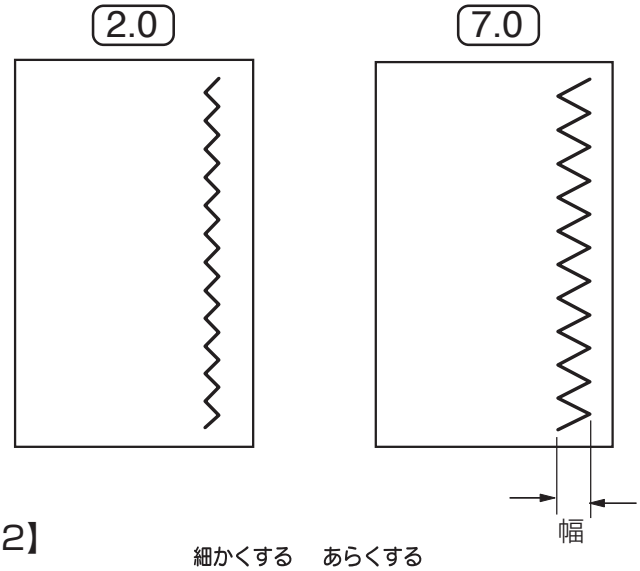
布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。

●ジグザグぬい





【1】



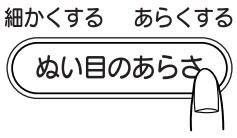
【1】ぬい目の幅をかえるとき

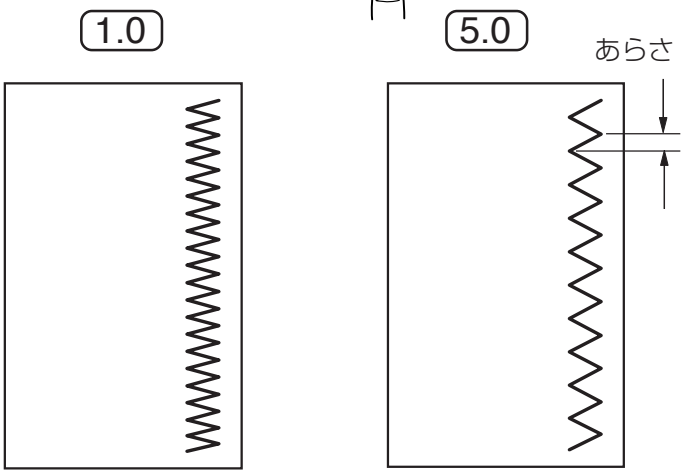
「ぬい目の幅調節ボタン」の「せまくする」側を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目の幅はせまくなります。

「ぬい目の幅調節ボタン」の「広くする」側を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目の幅は広くなります。

ぬい中でも調節できます。

【2】





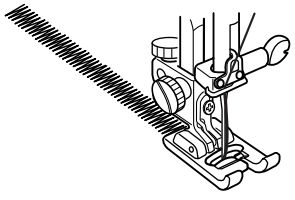
【2】ぬい目のあらさをかえるとき

「ぬい目のあらさ調節ボタン」の「細かくする」側を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目のあらさが細かくなります。

「ぬい目のあらさ調節ボタン」の「あらくする」側を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目のあらさがあらくなります。

ぬい中でも調節できます。

★ジグザグ密着ぬい



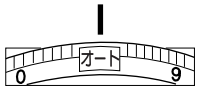
押さえは、F:サテン押さえを使用します。

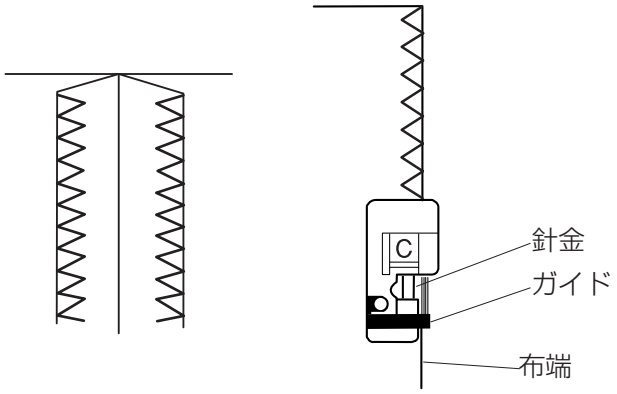
ぬい目のあらさを細かくすると、密着ぬいになります。

布の裏に芯地を貼るときれいにぬえます。

●ジグザグたち目かがりぬい

ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子ダイヤル
		
	C: たち目かがり押さえ	「オート」

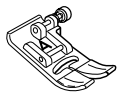
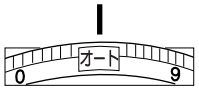


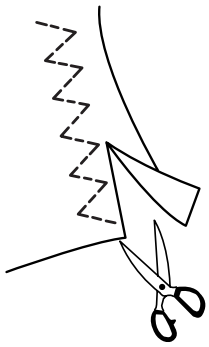
※ ぬい目の幅は、5.0 ～ 7.0 の間でぬいます。
※ ぬいの前に必ず、押さえの針金に針があたらないことを、確認してください。

布端をＣ：たち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。
布端のほつれ止めとして広く利用します。

●トリコットぬい

ミシンのセット

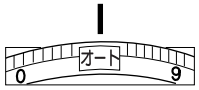
模様	押さえ	糸調子ダイヤル
		
	A: 基本押さえ	「オート」

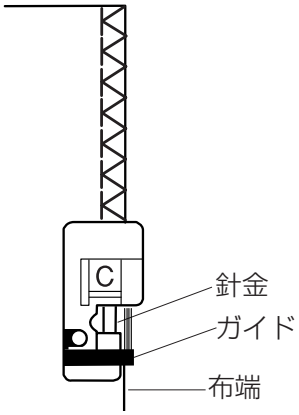


ほつれやすい布や伸縮性（ニット、トリコットなど）のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

●かがりぬい

ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子ダイヤル
		
	C: たち目かがり押さえ	「オート」



地ぬいをかねた、たち目かがりに使います。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。

※ Ｃ：たち目かがり押さえを使用するかがりぬいのときは、ぬい目の幅を5.0～7.0の間でぬいます。
※ ぬいの前に必ず、押さえの針金に針があたらないことを、確認してください。

●ボタン付け

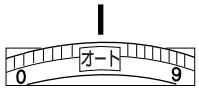
ミシンのセット

模様

押さえ

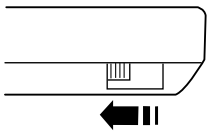
F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

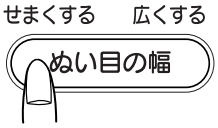


「オート」

※送り歯をさげます。
（12ページをごらんください。）

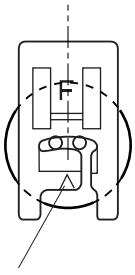


①

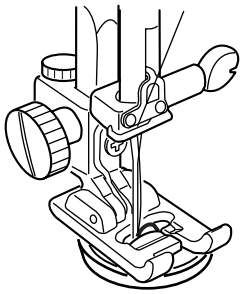


① 針に糸を通さない状態でボタンを押さえマークの中央に置き、はずみ車を手前にまわして、ボタン穴の幅に針がおりるように「ぬい目の幅調節ボタン」を押して調節します。

※ 模様のぬい始めには止めぬいが入っています。はずみ車をまわしたとき、左位置で数針上下をくり返します。
左右に針が振りはじめてからボタン穴の幅に合わせてください。

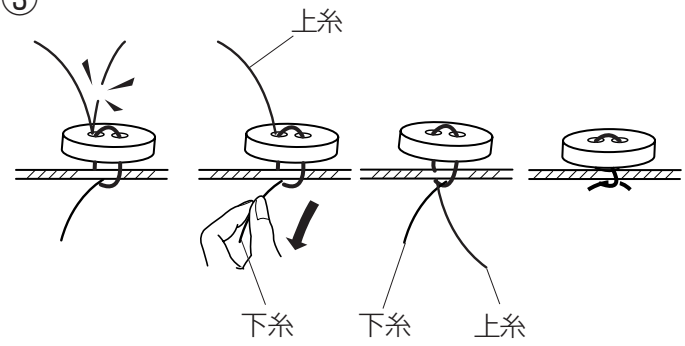


②



② 針に糸を通し、布とボタンを押さえの下にセットして10針ほどぬいます。

③



③ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。（ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで短く切ってください。）
ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい終わったらドロップつまみをもどして、送り歯をあげます。

●ボタンホールの種類と用途

スクエアボタンホール

シャツ、パジャマ、ブラウスなどに利用します。

キーホールボタンホール

ブラウス、子供服などに利用します。

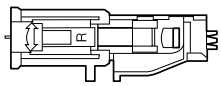
大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

●スクエアボタンホール

ミシンのセット

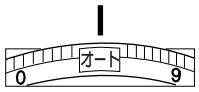
模様

押さえ



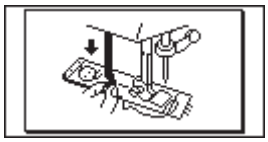
R: ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル



「オート」

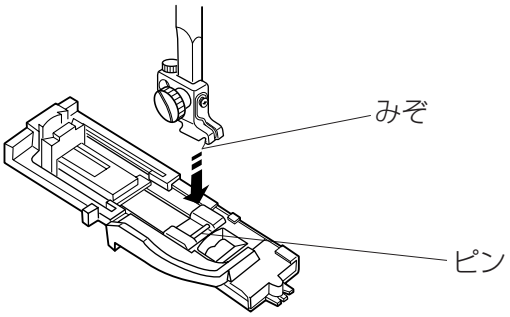
BH レバーを引きさげます。



※ ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタン受け台にはさみ込むと決まります。
※ ボタンの直径 1.0 ～ 2.5cm まで、ボタンホールができます。
※ ボタンホール幅は、シャツなどのボタン穴の幅に自動セットされています。
※ 伸縮性のある布には、伸び止めのため、裏に接着芯を貼ります。
※ 必ず、試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。

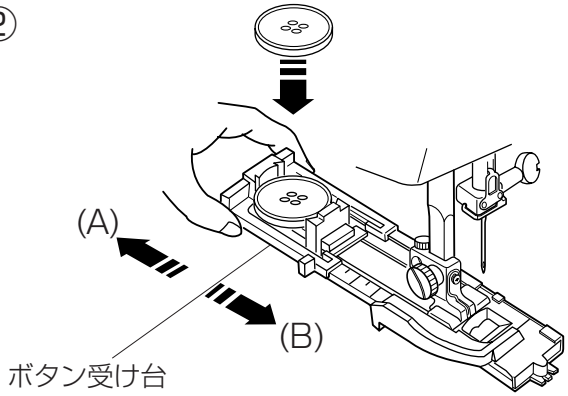
★ぬい

①



① 「上 / 下で止めるボタン」を押して針をあげ、押さえをあげます。
押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえをさげてセットします。

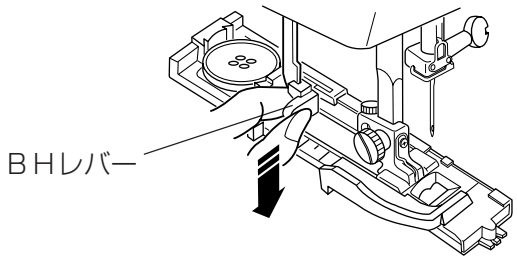
②



② ボタン受け台を（A）の方向へ引き、ボタンを乗せて（B）方向にもどしてはさみ込みます。

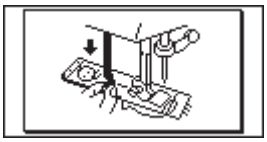
※ ボタン受け台のすきまをあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。

③



③BH レバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

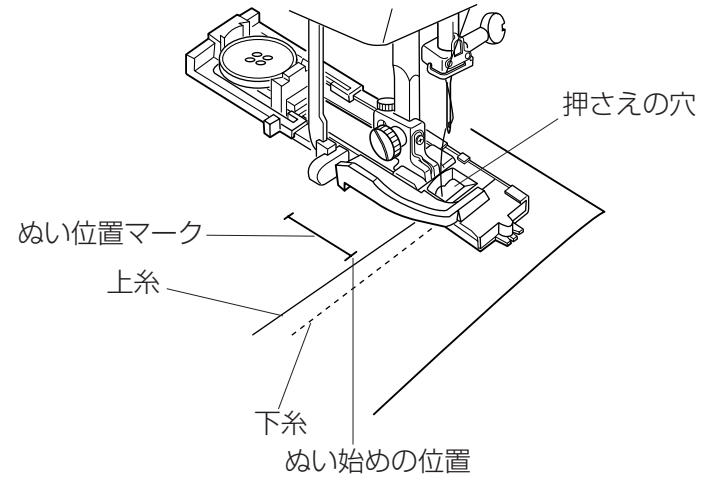
（注意画面）

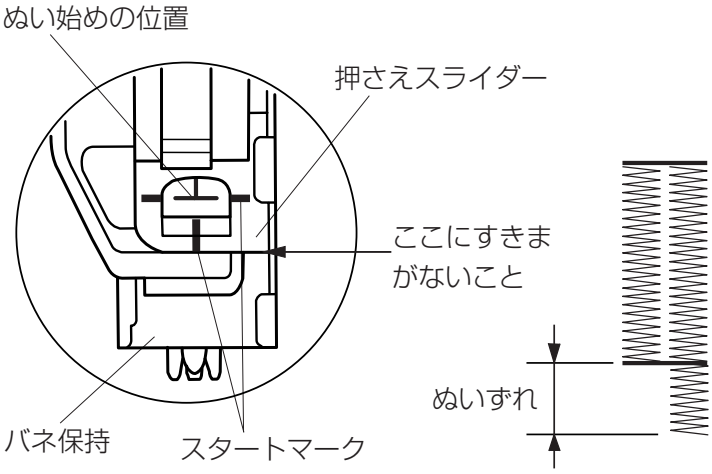


（注意画面）

※ BH レバーをさげないでボタンホールを 0.5cm ぬうと表示され、ミシンが止まります。
BH レバーを引きさげて再スタートします。

④

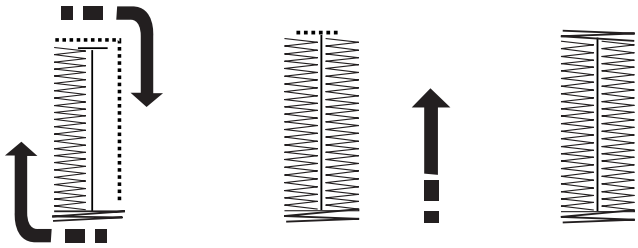




④押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、押さえのスタートマークとぬい始めの位置を合わせ、針をさして押さえをさげます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。すきまがあるとぬい終わったときぬいずれがおこることがあります。

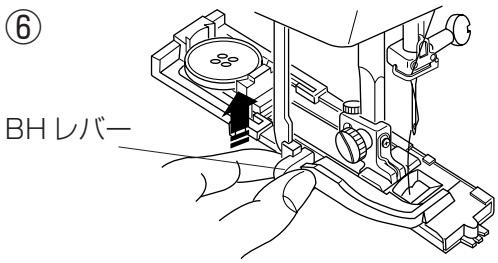
⑤



⑤ミシンをスタートさせます。
ボタンホールをぬい終わったところで、自動的に止まります。

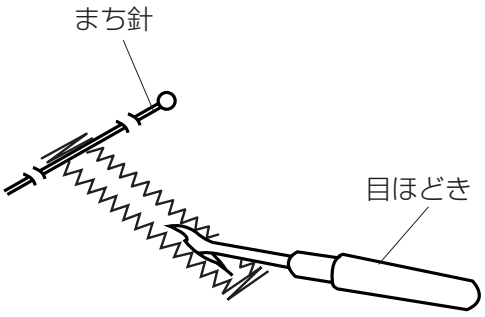
※ 引き続きボタンホールをする場合、押さえをあげて糸を切り、別の場所にBHレバーはそのままの状態で押さえをおろしスタートします。

⑥



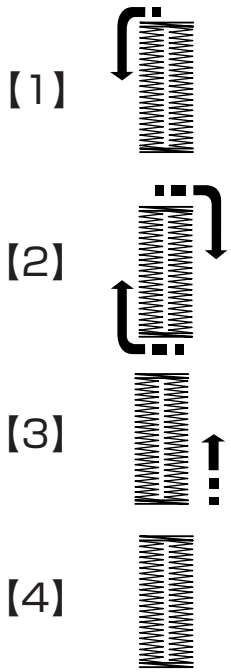
⑥ぬい終わったら、BHレバーを止まるまでいっぱいに押し上げてもどしてください。

⑦



⑦かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切り開きます。

★重ねぬい



ボリューム感のあるボタンホールができます。
1度目のボタンホールをぬい終わったら、押さえ上げをさげたまま、スタートすると自動的に重ねぬいをします。
※ボタンホールの重ねぬいをする場合には、1回目のぬいを確実に終了させた後、再スタートしてください。

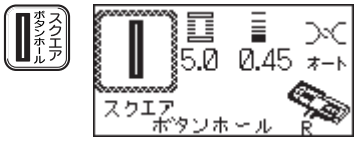
【ぬい順序】

【1】第1ステップ・・・ぬい始めの位置まで下ぬいをします。
【2】第2ステップ・・・かんぬきと左側のボタンホールを重ねてぬいます。
【3】第3ステップ・・ 右側のボタンホールを重ねてぬいます。
【4】第4ステップ・・・かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

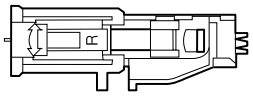
★芯入りスクエアボタンホール

ミシンのセット

模様

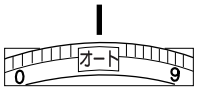


押さえ



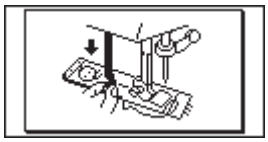
R: ボタンホール押さえ

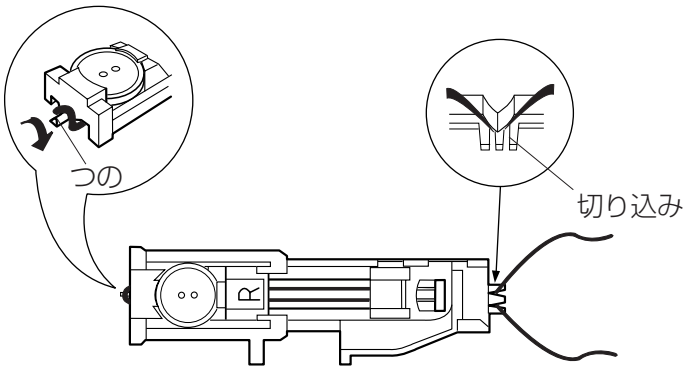
糸調子ダイヤル

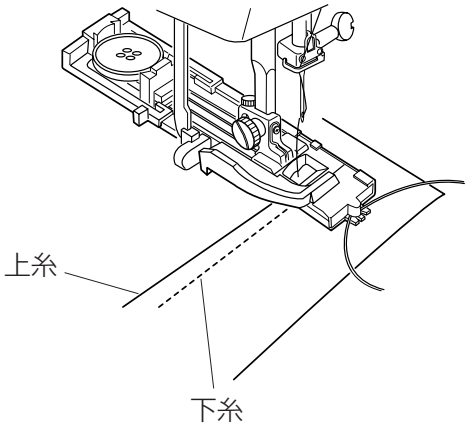


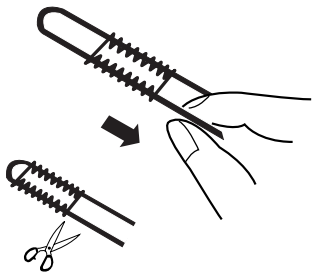
「オート」

BH レバーを引きさげます。









① 上糸と下糸を横に引き出してそろえます。

② 押さえ前部の、右側切り込みに芯糸の一方の端をはさみ、芯糸を押さえの下から後ろに引き、輪にしてつのにかけます。

③ つのにかけた芯糸を、押さえの下を通して、前部左側の切り込みに、しっかりはさみます。

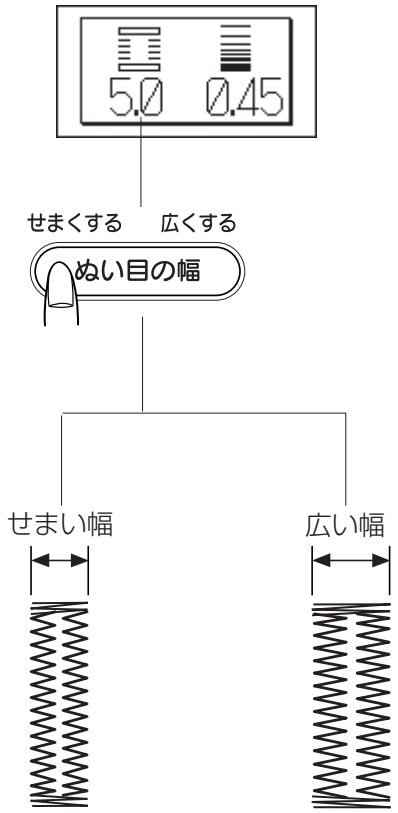
④ ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

⑤ ボタンホールをぬいます。

⑥ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

※ぬい目の幅は、芯糸に合わせてセットします。
※ボタン穴の開け方は、34ページをごらんください。

★ボタンホールの幅をかえるとき

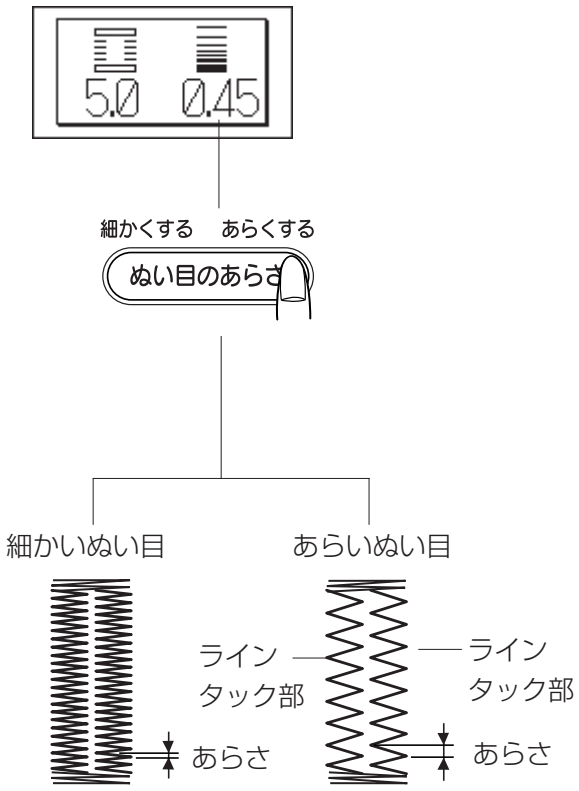


「ぬい目の幅調節ボタン」を押して調節します。

「広くする」側を押すと幅は広くなります。

「せまくする」側を押すと幅はせまくなります。

★ぬい目のあらさをかえるとき



「ぬい目のあらさ調節ボタン」を押して調節します。

「あらくする」側を押すとあらさはあらくなります。

「細かくする」側を押すとあらさは細かくなります。

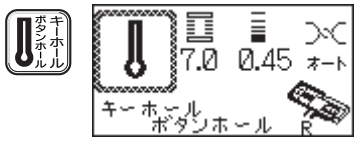
※ 試しぬいをスタートしてからボタンホール幅、あらさをかえたい場合、ラインタック部で止めてから行ってください。

※ 電源を切ったときや、他の模様を選択したとき、ボタンホール幅、あらさのセットはキャンセルされます。

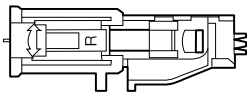
● キーホールボタンホール

ミシンのセット

模様

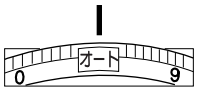


押さえ



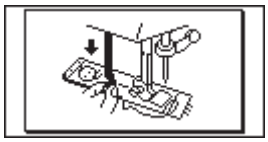
R: ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル

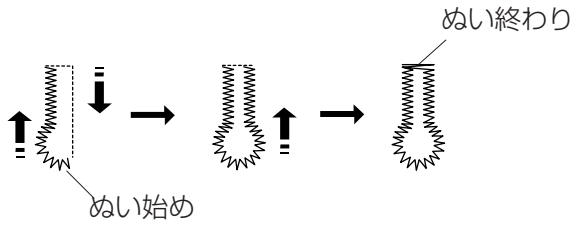


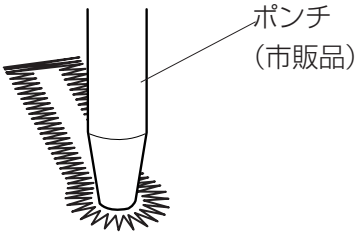
「オート」

BH レバーを引きさげます。

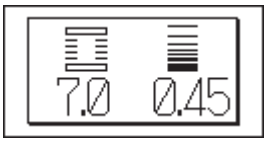


※ぬい手順は、スクエアボタンホールと同じです。





※ キーホールボタンホールの場合は、ポンチ（市販品）で穴を開けてから、目ほどきで切り開いてください。



【ぬい目の幅をかえるとき】

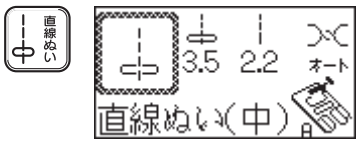
「ぬい目の幅調節ボタン」を押すと、5.5 ～ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえられます。
初期の状態（購入時のセット状態）は 7.0 を表示します。

※ぬい目のあらさは、スクエアボタンホールと同じです。

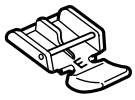
●ファスナー付け

ミシンのセット

模様

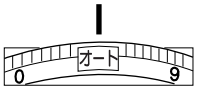


押さえ



E: ファスナー押さえ

糸調子ダイヤル

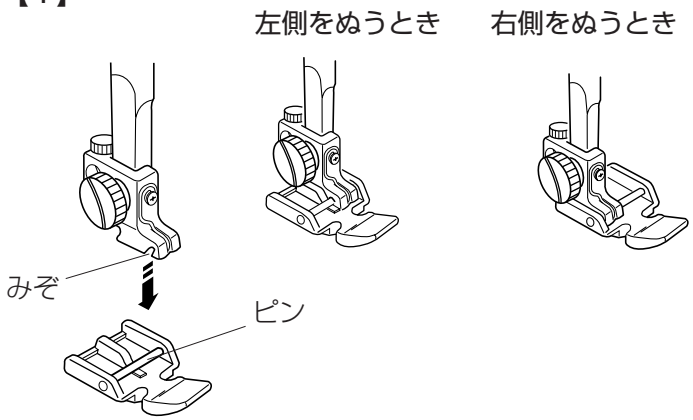


「オート」

⚠ 注意

ファスナー押さえは、必ず模様 直線ぬい だけに使用してください。ほかの模様では、針が押さえにあたり、**けがの原因になります。**

【1】

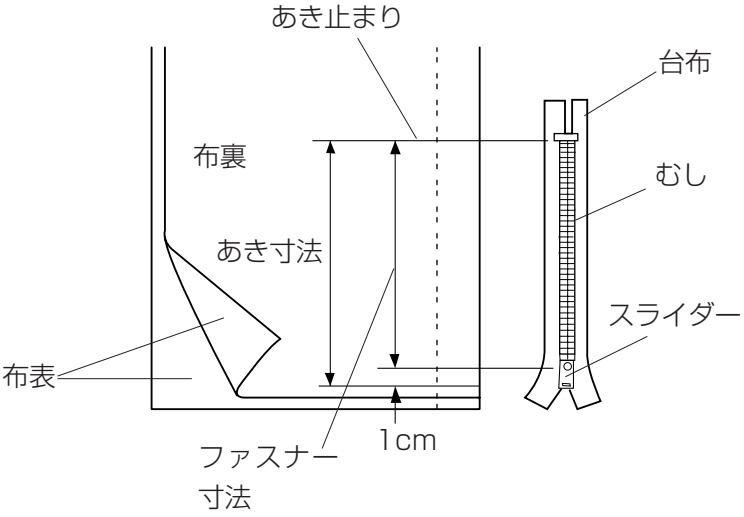


【1】ファスナー押さえの付け方

むしの左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
むしの右側をぬうときは、左側にセットします。

【2】

①

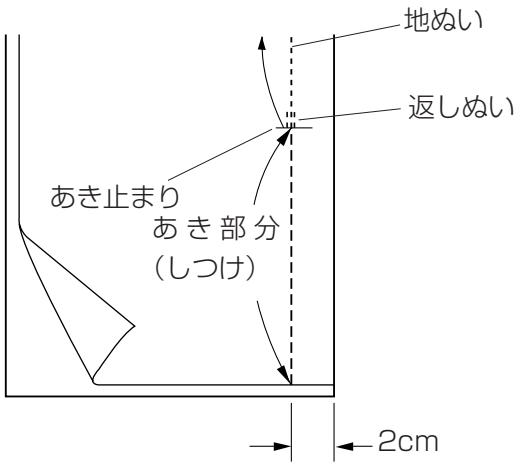


【2】準備 （例：左脇あきのぬい方）

①ファスナーのあき寸法を確かめます。

あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

②



②しつけと地ぬいをします。

布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

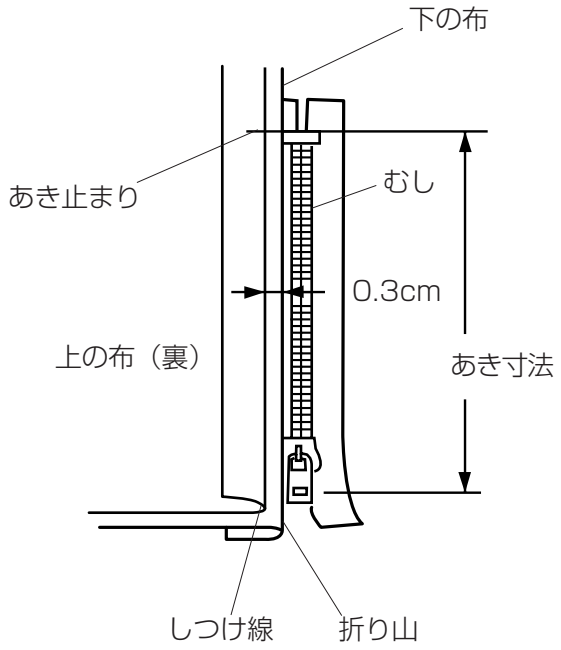
地ぬいの部分は、A: 基本押さえを使ってぬいます。

あき部分は、ぬい目のあらさ0.5cmでしつけぬいをします。

※ しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

【3】

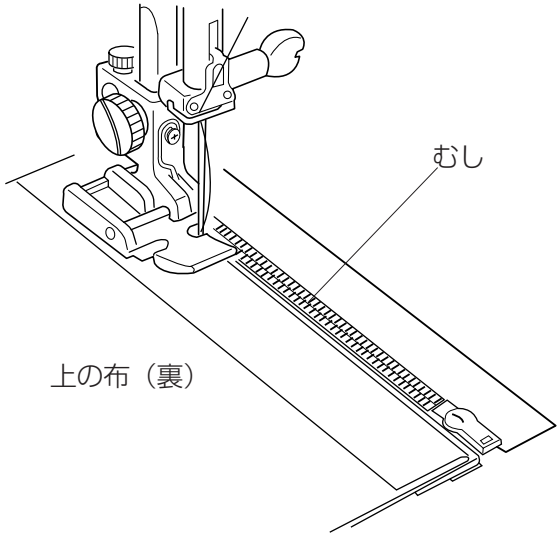
③



【3】ぬい方

③ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

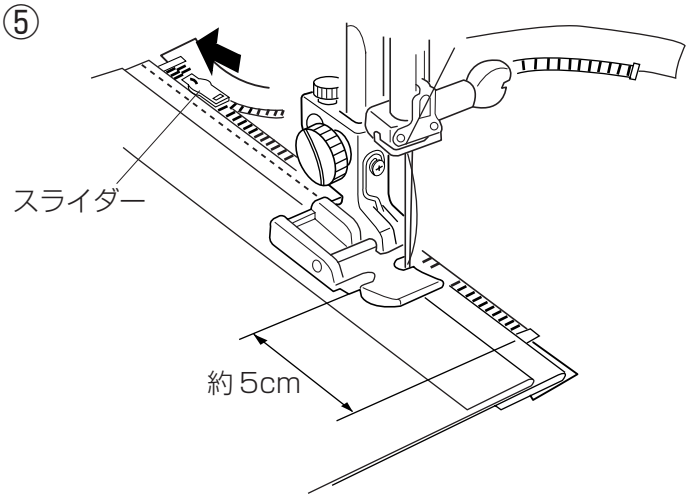
④



④押さえホルダーを押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

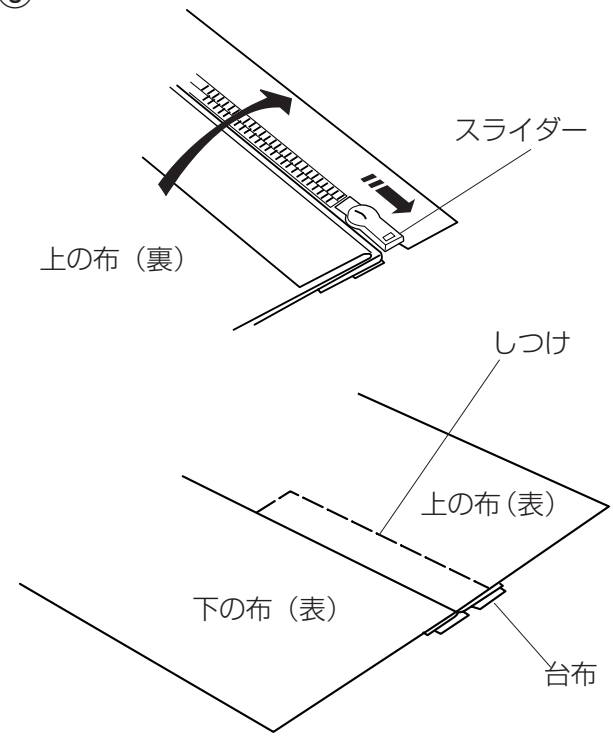
⑤



⑤ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

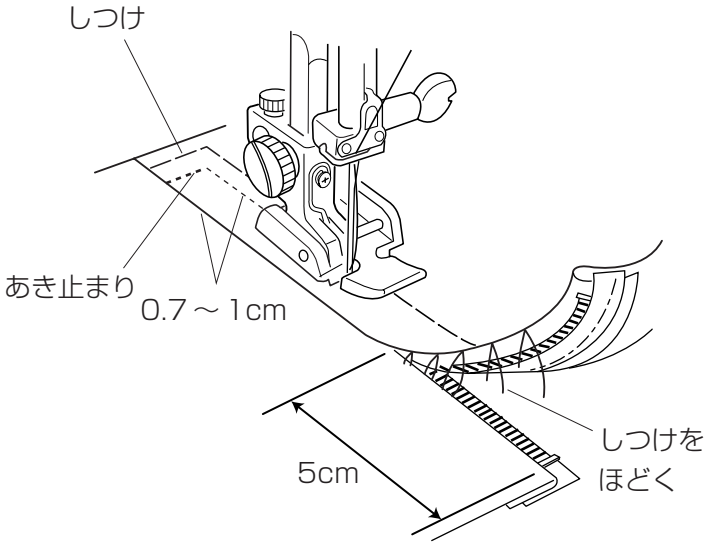
※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

⑥



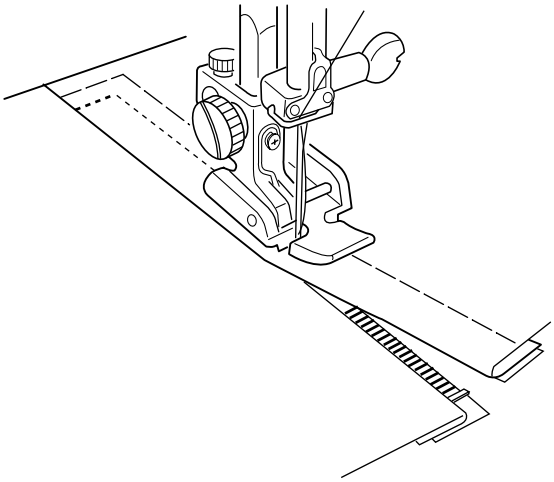
⑥ファスナーをとじ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

⑦



⑦押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。
上の布のあき止まりを（0.7～1cm）返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。
ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、針をさげ、押さえ上げをあげて、手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑧

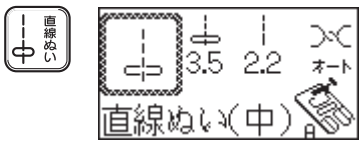


⑧スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順⑥でぬったしつけ糸をほどきます。

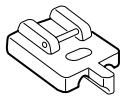
●コンシールファスナー付け

ミシンのセット

模様

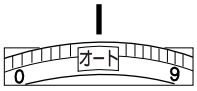


押さえ



Z: コンシール
ファスナー押さえ

糸調子ダイヤル



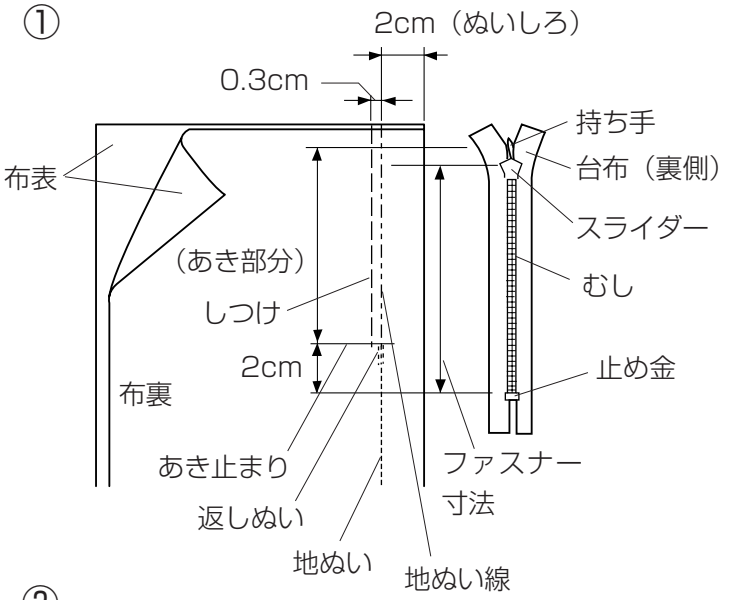
「オート」

⚠ 注意

コンシールファスナー押さえは、必ず、模様 だけに使用してください。ほかの模様では、針が押さえにあたり、**けがの原因になります。**

※ コンシールファスナーはあき寸法より 2cm くらい長いものを準備します。

①



① (しつけ)

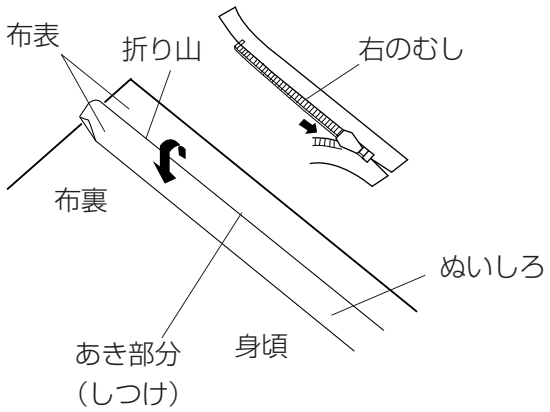
布を中表に合わせて、あき部分はぬい目あらさ「5.0」にして地ぬい線より内側に0.3cm の位置をぬいます。

(地ぬい)

あき止まりから下は、ぬい目あらさ「2.2」で返しぬいを 1cm して、普通にぬい合わせておきます。

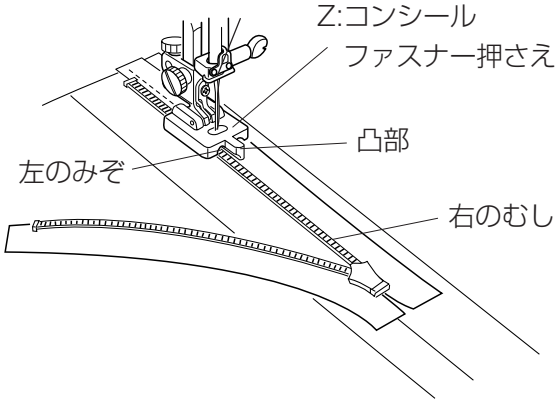
※ 地ぬいの部分は、A: 基本押さえを使ってぬいます。

②



② 上の布のぬいしろを、ぬい目の線で身頃側へ折り返します。ファスナーを裏返しにセットし、ファスナーをひらいて、右のむしを折り山にあてておきます。

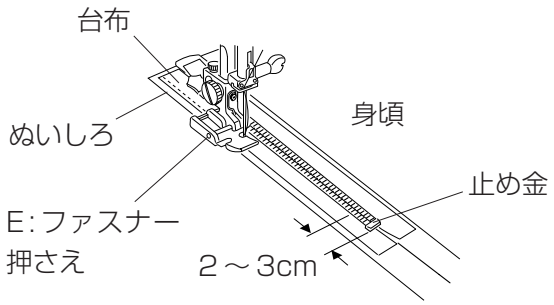
③



③ Z:コンシールファスナー押さえに付けかえます。

右のむしを立てて、押さえの左のみぞに入れ、むしの部分を押さえの凸部にあてながら、あき止まりまでぬっていきます。

④ ⑤ ⑥

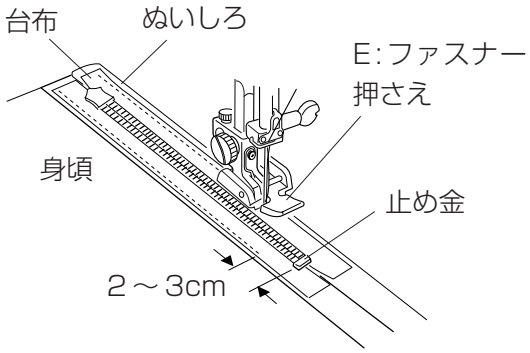


④ 押さえをあげ、スライダーをとじます。

⑤ Z：コンシールファスナー押さえを外し、E：ファスナー押さえの右側位置に押さえホルダーをセットします。

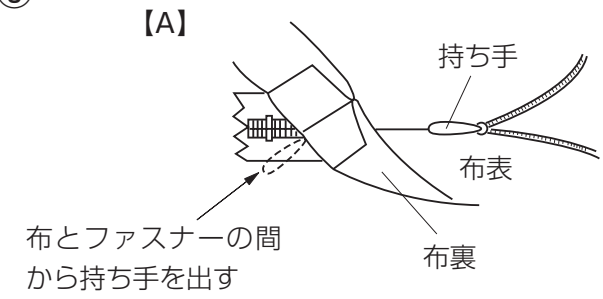
⑥ ファスナーの下の身頃を、右側に折り返して、左側の台布の端を、ぬいしろに止め金から2～3cmのところまでぬい付けます。

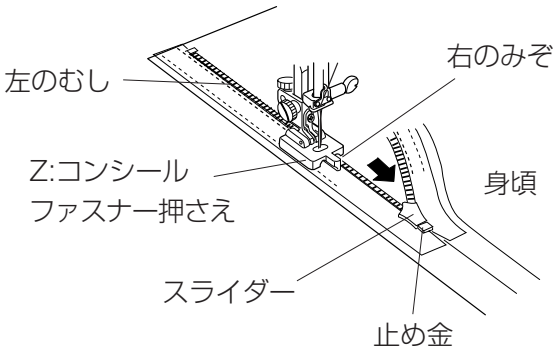
⑦



⑦ 押さえをあげ、E：ファスナー押さえの左側位置に押さえホルダーをセットします。
スライダーの下の身頃を、左側に折り返して、右側の台布の端を、ぬいしろに止め金から2～3cmのところまでぬい付けます。

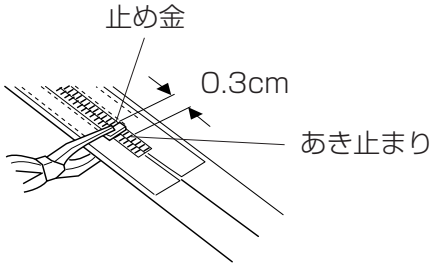
⑧





⑧ Z：コンシールファスナー押さえに付けかえます。
手順①でぬったしつけ糸をほどき、スライダーを止め金までおろします。
表から持ち手を布とファスナーの間に入れるとスライダーは止め金までさがります。（図【A】）
左のむしを立てて、押さえの右のみぞに入れ、身頃を右に折り返して、ぬいしろにぬいつける手順③と同じ方法でぬっていきます。

⑨ ⑩



⑨ スライダーをとじます。

⑩ 止め金をファスナーのあき止まり位置より0.3cmくらい上でペンチで固定します。

●くけぬい（まつりぬい）

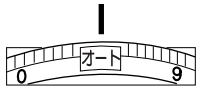
ミシンのセット

模様

押さえ

G: くけぬい押さえ

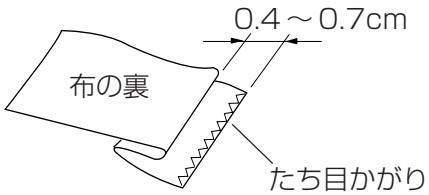
糸調子ダイヤル



オート

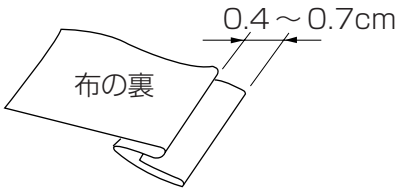
【1】

（厚い布の場合）

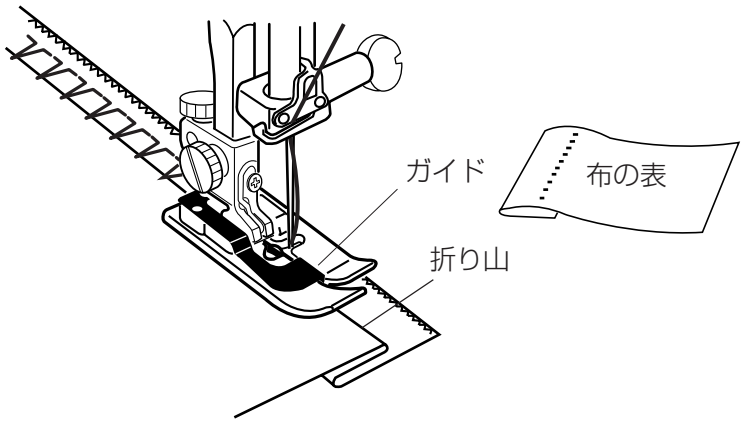


【1】布の折り方

（うすい布、普通の布の場合）



【2】

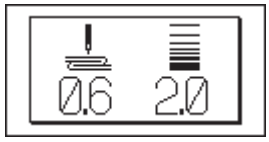


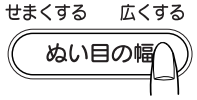
【2】ぬい

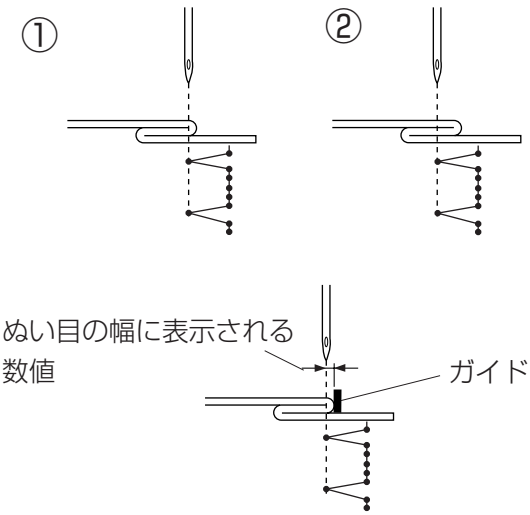
① ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないように「ぬい目の幅調節ボタン」で針落ち位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布をひろげます。

【3】







【3】針落ち位置をかえるとき

「ぬい目の幅調節ボタン」を押して調節します。
ぬい目の幅表示部の数値は、G: くけぬい押さえのガイドと、左側ぬい目との距離を示します。

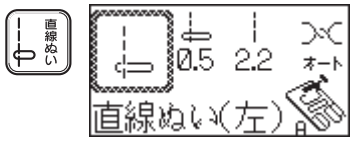
① 針落ち位置を右に移動させたいとき「せまくする」側を押します。

② 針落ち位置を左に移動させたいとき「広くする」側を押します。

●ピンタック

ミシンのセット

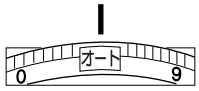
模様



押さえ

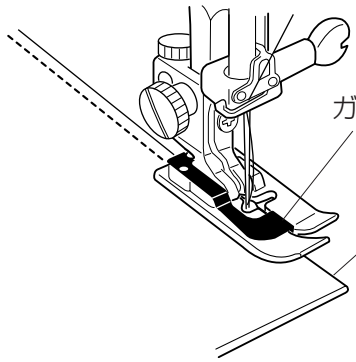
G: くけぬい押さえ

糸調子ダイヤル

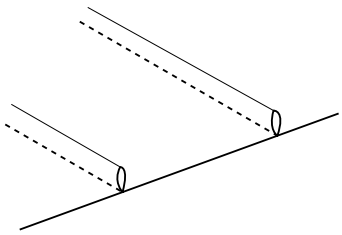


「オート」

①



②



① 折り山をガイドに合わせてぬいます。

※ 針落ち位置がガイドより左にあることを確認してください、針がガイドにあたりけがの原因になります。

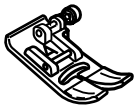
② ぬい終わったら片返しにして、アイロンで整えます。

●キルティング

ミシンのセット

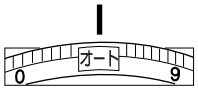
模様

押さえ



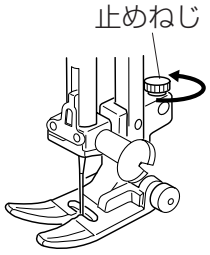
A: 基本押さえ

糸調子ダイヤル



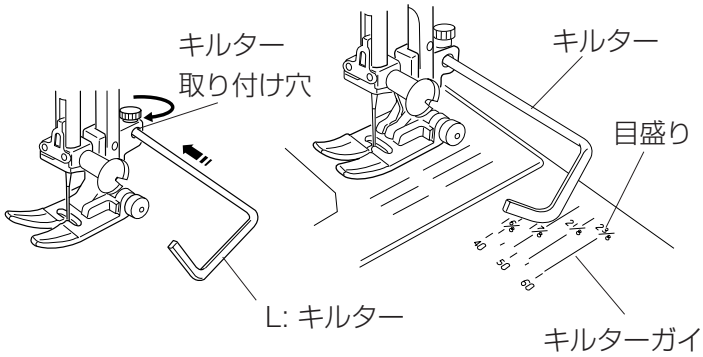
「オート」

①



① 止めねじをゆるめます。

②　③

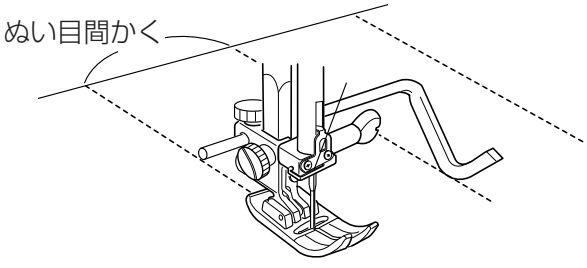


② キルターを押さえホルダーの取り付け穴に差し込み、ぬい目の間かくに合わせます。

※ キルターガイドに合わせて、ぬい目間かくを決めることもできます。

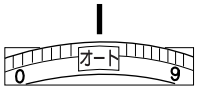
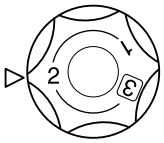
③ 止めねじをしめます。

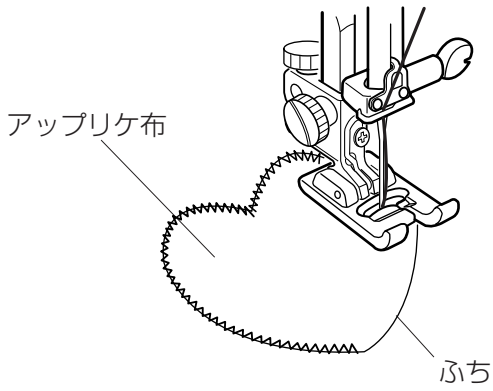
※ キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。



●アップリケ

ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子ダイヤル	押さえ圧ダイヤル
			
	F: サテン押さえ	「オート」	「2」

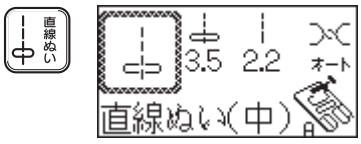
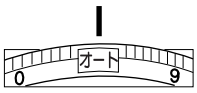


アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。

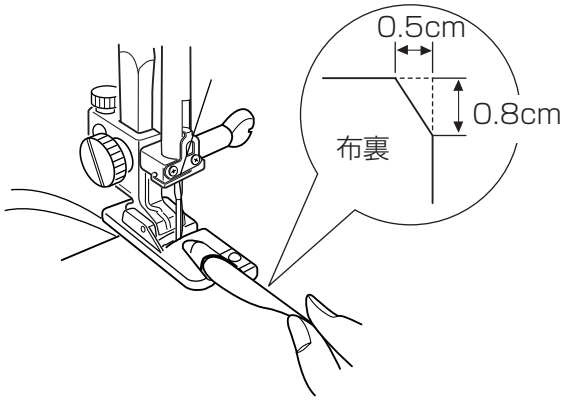
※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、「上 / 下で止めるボタン」を押して、押さえをあげ、針を下位置にしたままで方向をかえるときれいに仕上がります。

●三つ巻きぬい

ミシンのセット

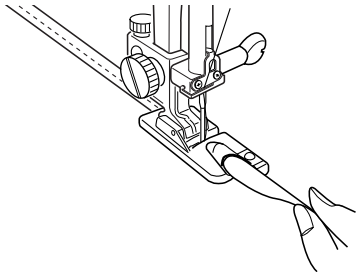
模様	押さえ	糸調子ダイヤル
		
	D: 三つ巻き押さえ	「オート」

①



① 布を巻き込みやすくするため角を少し切り、押さえのうずの中に布を針落ちにとどくところまで入れて、針をさして押さえをさげます。

②



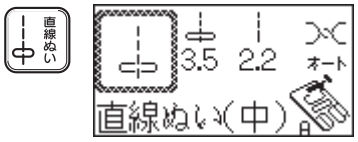
② 上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、手ではずみ車を手前に３～４回まわします。
正しく巻き込まれたら、親指と人さし指で布をつまみ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ち上げながらぬいます。

●送りジョーズの使い方

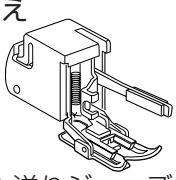
送りジョーズは、上下の歯で布送りをするので、薄物、ニット地、ビニールレザー、皮革などの素材に使用すると、ぬいずれやぬいじわを防止するのに効果があります。

ミシンのセット

模様

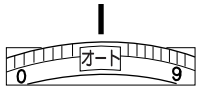


押さえ



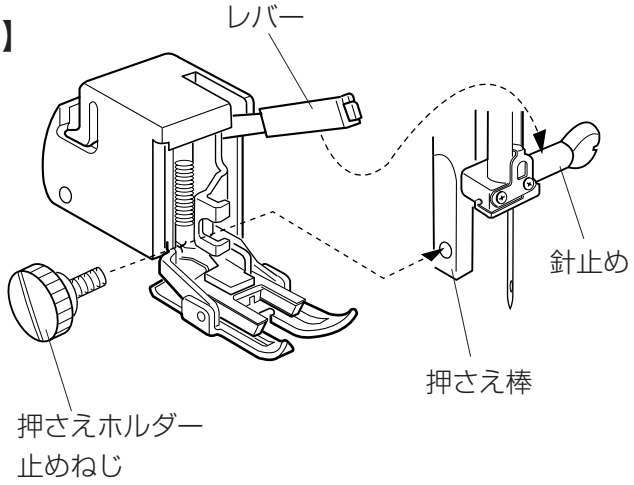
ef：送りジョーズ

糸調子ダイヤル



「オート」

【1】



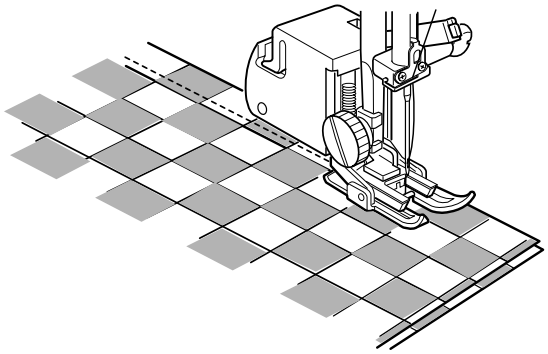
【1】送りジョーズの取り付け方とぬい方

① 電源スイッチを切ります。

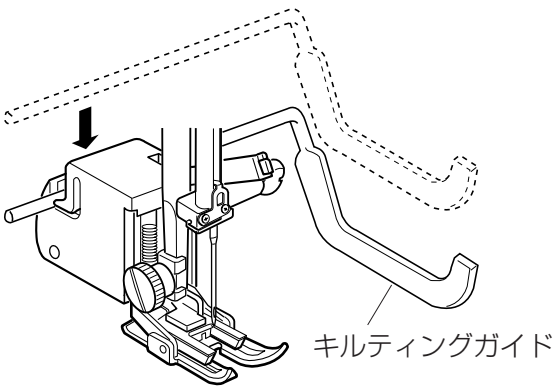
② 針と押さえをあげ、押さえホルダーを外します。（13ページをごらんください。）

③ レバーが針止めにのるように、送りジョーズを向こう側から押さえ棒に取り付け、押さえホルダー止めねじでしっかり取り付けます。

④ 電源を入れ、低速から中速の速さでぬいます。

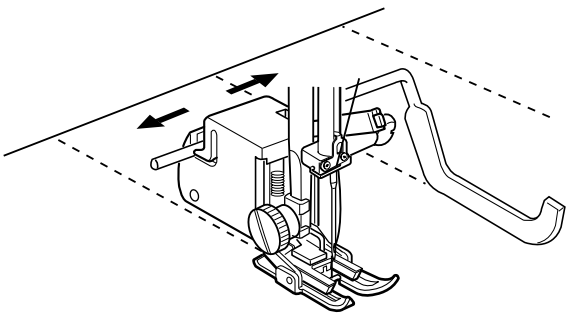


【2】



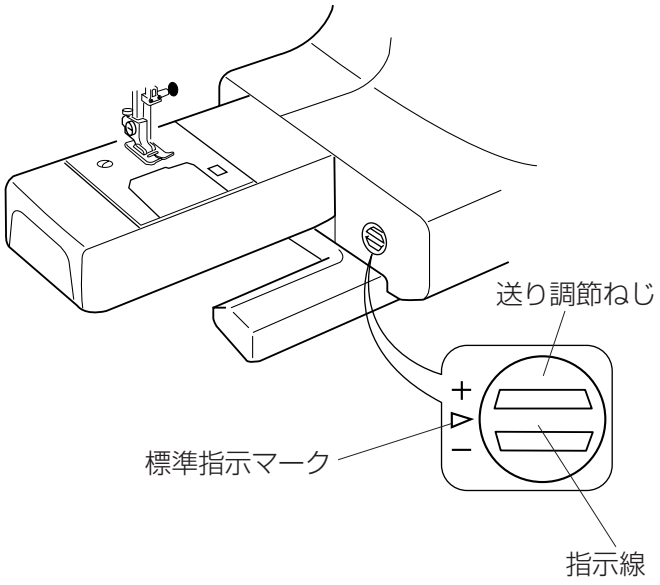
【2】キルティングガイドの取り付け方と使い方

① キルティングガイドを図のように上から下に向けて、押し込んで固定します。



② キルティングガイドをぬい目の間かくに合わせて、左右方向の位置を調節します。

◎スーパー模様の形の整え方



布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が模様を正しくぬえる目安の位置です。

（例）模様

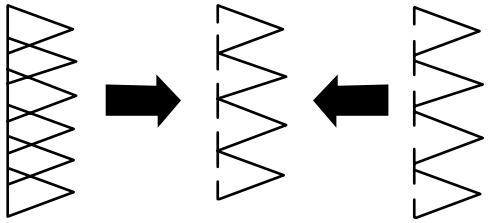


図１　　図２

模様が伸びたり、つまったりして形が整わないときは、下記方法で調節します。

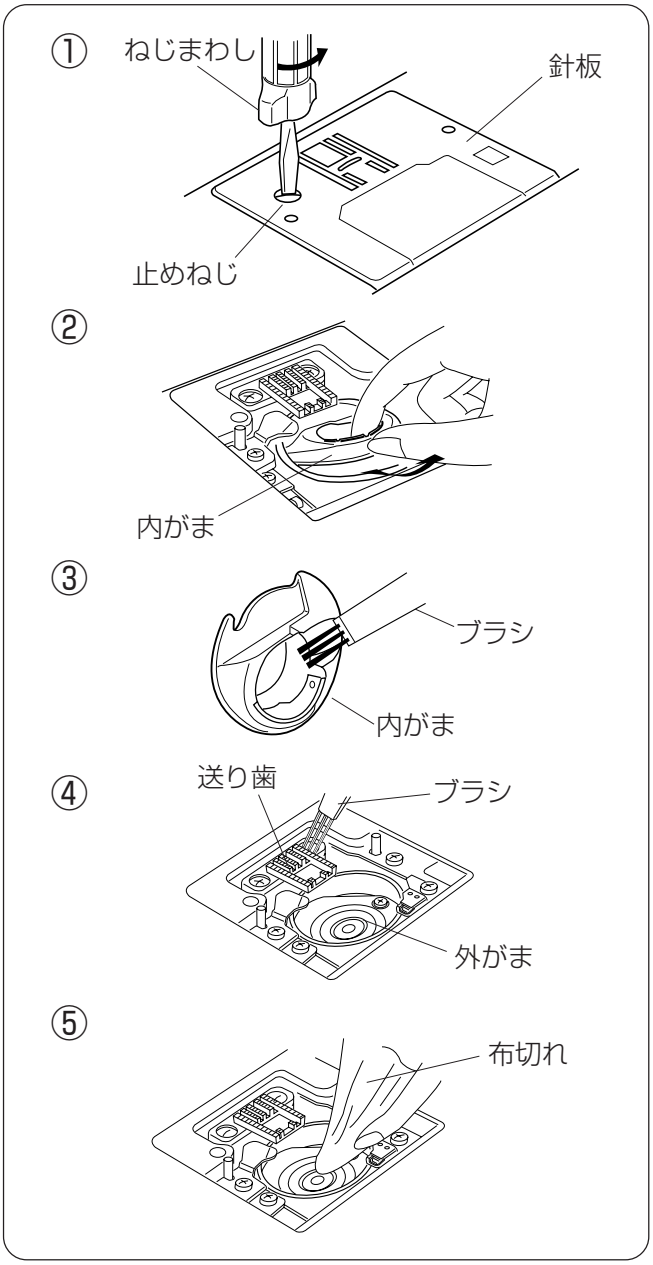
※スーパー模様は、

（前進ぬいと後進ぬいがある模様）です。

図１のように、模様がつまっているときは、送り調節ねじを「＋」方向にまわします。
図２のように、模様が伸びているときは、送り調節ねじを「－」方向にまわします。

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除



⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。

感電・火災・けがの原因になります。

① 針と押さえを外します。
止めねじを外し、針板を外します。

② ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。

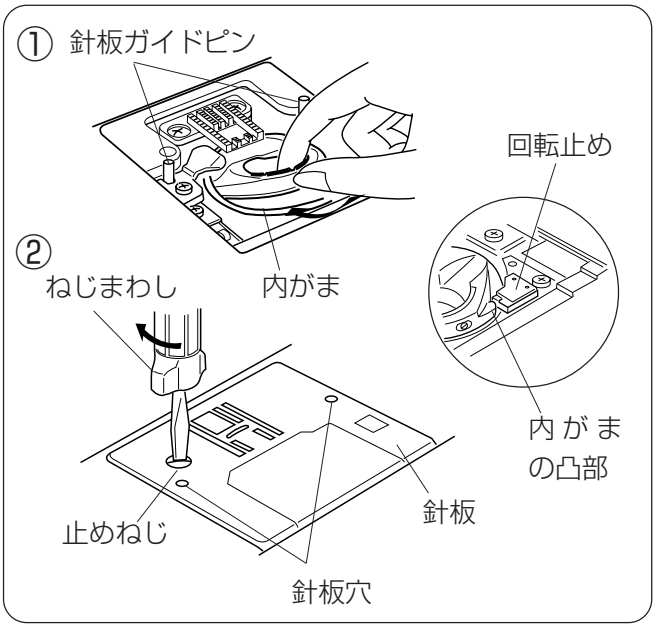
③ 内がまを、ブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。

④ 送り歯のごみをブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

●内がまと針板の組み付け



① 内がまを差し込みます。
内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

② ボビンを入れ、２ケ所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせ、止めねじをしめます。

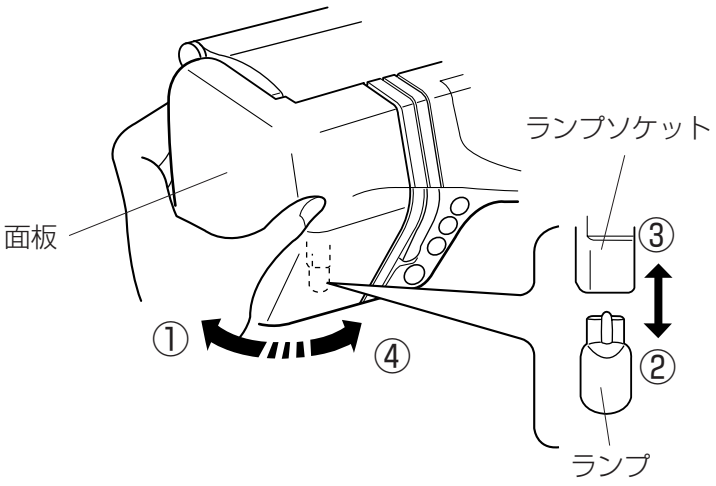
※ 手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを付けてください。

●ランプの取りかえ方

⚠ 注意

ランプを取りかえるときは、必ず電源スイッチを切り 、
コンセントから電源プラグを抜いてください。
また、ランプが冷えてから行ってください。
感電・やけどの原因になります。

【1】



【1】ミシン面板部ランプ

（外し方）

① 面板を開きます。

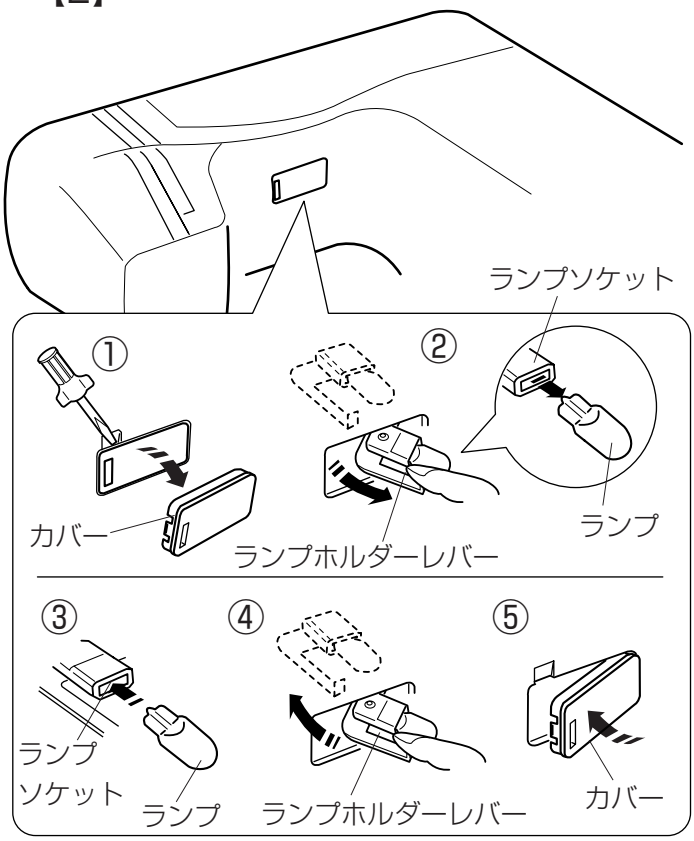
② ランプソケットからランプをそっと引き抜きます。

（付け方）

③ ランプをランプソケットの穴に合わせながら差し込みます。

④ 面板をしめます。

【2】



【2】ミシンふところ部ランプ

（外し方）

① ねじまわし等でカバーを取り外します。

② ランプホルダーレバーを引き出した状態でランプソケットからランプをそっと引き抜きます。

（付け方）

③ ランプをランプソケットの穴に合わせながら差し込みます。

④ ランプホルダーレバーをもとの位置にもどします。

⑤ カバーを取り付けます。

※ランプの購入は、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
ランプの定格は、12V 5W です。
定格の異なるランプは取り付けないでください。

◎こんな表示が出た場合

★注意画面の種類

警告音とともに下の表の表示が出た場合は、対処方法にしたがってください。
表示は2秒後または、正しい操作が行われると消えます。

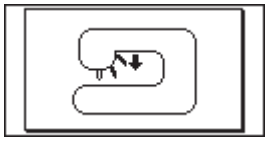
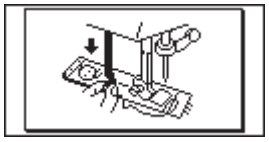
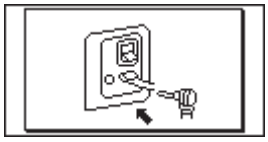
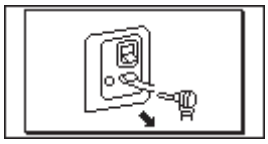
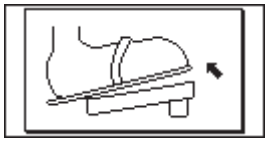
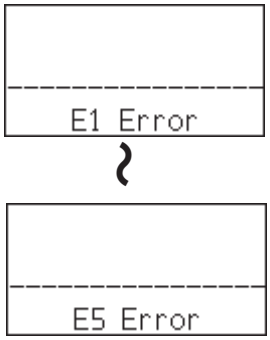
表　示	対　処　方　法
	1. 押さえ上げをさげないで、ミシンをスタートすると表示されます。押さえ上げをさげてスタートします。 2. ぬい終わらない前に押さえ上げをあげたとき表示され、ミシンが止まります。押さえ上げは、ぬい終わってからあげてください。
	BH レバーをさげないでボタンホールを 0.5cm ぬうと表示され、ミシンが止まります。 BH レバーを引きさげて再スタートします。
	止めぬい中にミシンを止めたときに、表示されます。 再スタートして最後までぬいます。
	フットコントローラー使用中に、接続が外れたとき表示されミシンが止まりますので、フットコントローラープラグを接続して再スタートしてください。
	フットコントローラーを接続したまま、スタート・ストップボタンを押したときに表示します。 フットコントローラープラグを外して、再スタートしてください。
	フットコントローラーを踏みこんだまま電源を入れたときに表示されます。踏み込みを外してください。

表　示	対　処　方　法
	安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後１５秒間のあいだに再スタートしようとすると表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。糸がらみ等があったときには電源を切り、不要な糸を取り除いてください。 糸巻き中に糸がらみ等で糸巻き軸がロックされると表示されます。 電源を切り不要な糸を取り除いてください。 直らない場合は、すぐ電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。
	ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。電源を切り、針板を外し、かまや送り歯に糸がからんでいないか確認します。 直らない場合は、すぐ電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。
液晶画面の一部表示がずれる。 不要な表示が出る。 画面表示がかわらない。	電源スイッチを入れ直します。
返しぬいボタンが点滅する。	「自動返しぬい」、「自動止めぬい」模様でミシンを止めると 「返しぬいボタン」が点滅します。 その位置で返しぬい、あるいは、止めぬいをしたい場合は、「返しぬいボタン」を押します。 ぬい終わりでなければ、「スタート・ストップボタン」を押して再スタートします。

★ブザー音の種類

ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音または、ミシン異常時の警告音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	18ページ参照
	2．上糸調子が強すぎる。	22ページ参照
	3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	14ページ参照
	4．針の付け方がまちがっている。	14ページ参照
	5．ぬい始めに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。	23ページ参照
	6．糸がかまなどにからまっている。	48ページ参照
	7．針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照
	8．糸こまに上糸が引っかかっている。	糸こま押さえを付ける
下糸が切れる	1．下糸の通し方が、まちがっている。	17ページ参照
	2．内がまの中に、ごみがたまっている。	48ページ参照
	3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する
針が折れる	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	14ページ参照
	2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。	14ページ参照
	3．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	布を向こう側に出す
	4．布に対して針が細すぎる。	14ページ参照
	5．模様に合った押さえを使用していない。	指定の押さえに交換する
ぬい目がとぶ	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	14ページ参照
	2．布に対して、針と糸が合っていない。	14ページ参照
	3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。	14ページ参照
	4．上糸のかけ方がまちがっている。	18ページ参照
	5．品質の悪い針を使用している。	針を交換する
ぬい目がしわになる	1．上糸調子が合っていない。	22ページ参照
	2．上糸下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	17、18ページ参照
	3．布に対して針が太すぎる	14ページ参照
	4．布にくらべてぬい目があらすぎる。	ぬい目を細かくする
	5．押さえ圧が合っていない。	12ページ参照
布送りがうまくいかない	1．送り歯に糸くずがたまっている。	48ページ参照
	2．ぬい目が細かすぎる。	ぬい目をあらくする
	3．送り歯があがっていない。	12ページ参照
ぬい目に輪ができる	1．上糸調子が弱すぎる。	22ページ参照
	2．糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照
ミシンがまわらない	1．電源のつなぎ方がまちがっている。	6ページ参照
	2．かまに、糸やごみがたまっている。	48ページ参照
	3．ボビンに糸がからまっている。	ボビンの糸を確認する
	4．押さえ上げをさげないで、スタート・ストップボタンを押している。	12ページ参照
ボタンホールがうまくいかない	1．布に対して、ぬい目のあらさが合っていない。	36ページ参照
	2．伸縮性のある布のとき、のびない芯地を使っていない。	32ページ参照
	3．BHレバーがさがっていない。	33ページ参照
音が高い	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。	48ページ参照
	2．送り歯に、ごみがたまっている。	48ページ参照
	3．電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音がでる。	異常ではありません
ぬいずれがおこる	1．押さえ圧が合っていない。	12ページ参照

※静かな部屋で使うと、「ウイーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

仕　　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	50W/ ランプ 12V5W
外形寸法	幅 41.8cmX 奥行 18.1cmX 高さ 29.6cm
質　　量	8.8kg（本体）
使 用 針	家庭用　HA X 1
ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時（毎分 820 針）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より 1 年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住　所　〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室　0120 − 026 − 557（フリーダイヤル）
　　042 − 661 − 2600
受　付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
　　（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp